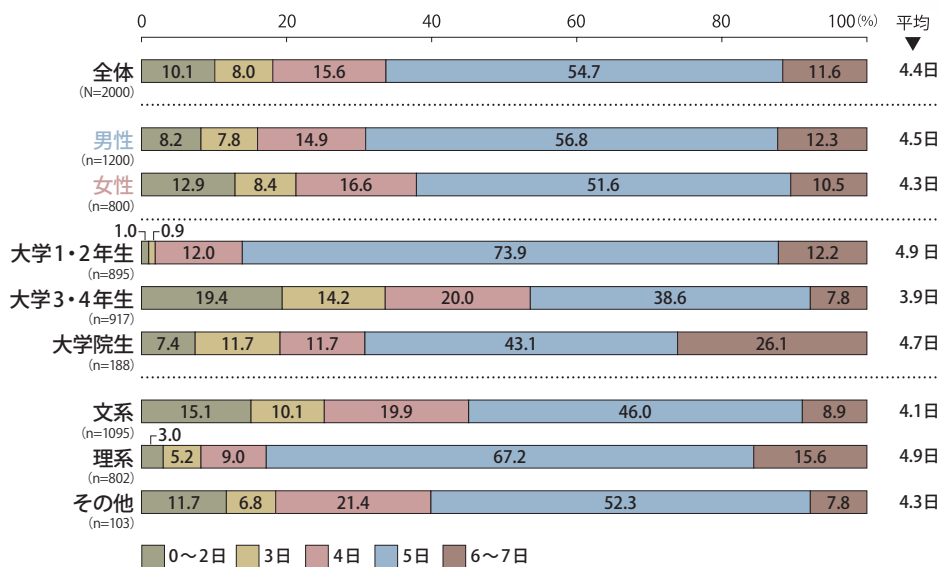
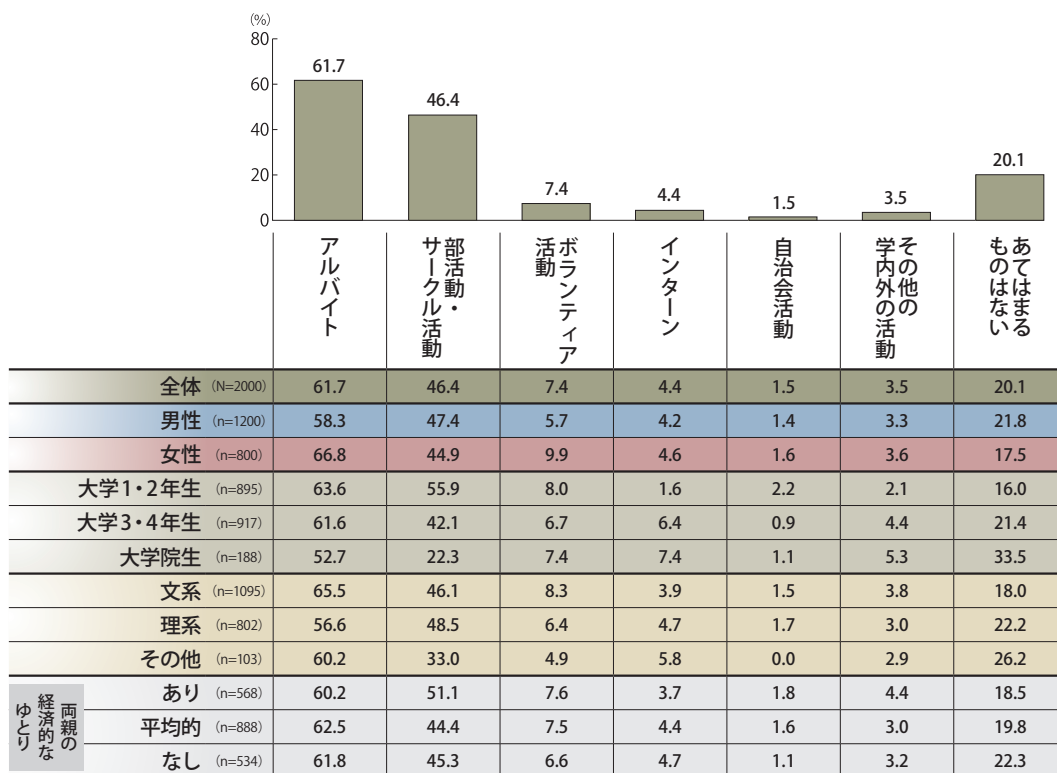


## 通学日数 (週に何日程度大学または大学院に通っているか) 男性は平均4.5日、女性は平均4.3日



- 平均通学日数は4.4日。週4日～7日で全体の8割以上を占める。
- 男性は平均4.5日、女性は平均4.3日。平均で見ると男性のほうが日数は多い。
- 大学生は、低学年ほど通学日数は多く、大学1・2年生の8.5割は週に5日以上。一方、3・4年生では5分の1が「2日以下」で、平均通学日数は3.3日と少ない。
- 専攻学科では、文系より理系で通学日数が多い。

## 学内外の活動 (現在しているものをすべて選択) 経済的なゆとりにかかわらず6割がアルバイト

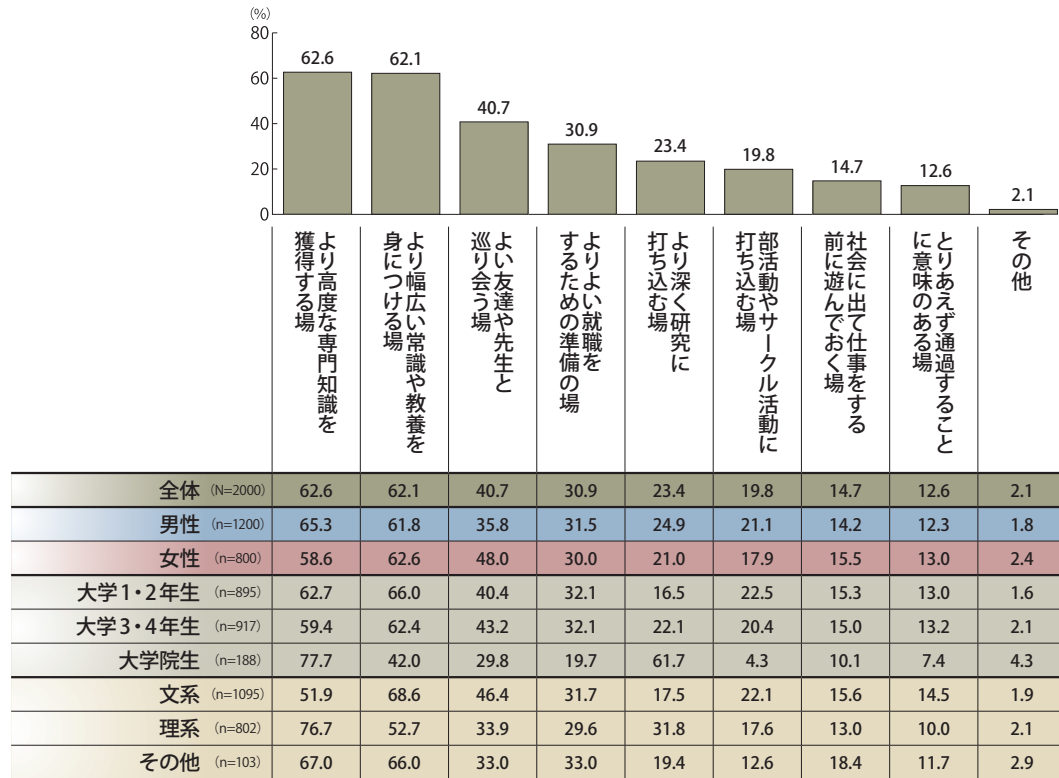


- 全体の6割が「アルバイト」をしており、「部活動」参加者も5割近い。
- 「アルバイト」は男性よりも女性で多く、大学院生で少ない。また、理系より文系で多い。両親の経済的なゆとりとの関係性は見られない。
- 「部活動・サークル活動」は、大学1・2年生で多い。
- 「インターン」は大学3・4年生、大学院生で比較的多い。

大学生生活について

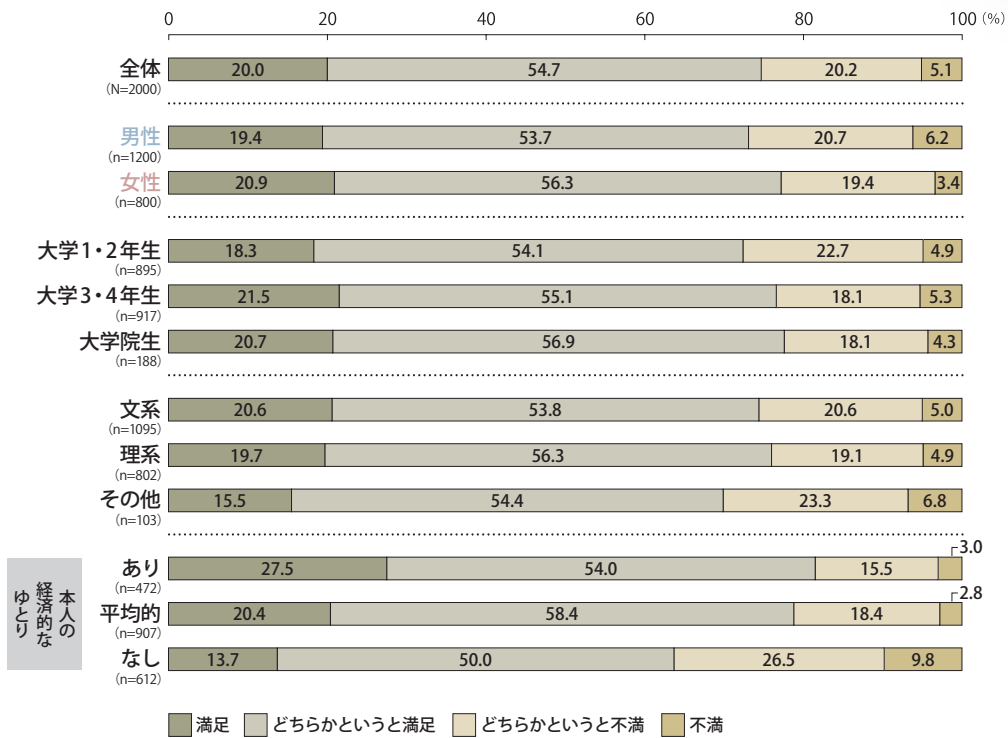
## 大学の意義 (3つまで選択)

# 大学は「専門知識や教養を身につける場」



- 大学(大学院)の意義をたずねたところ、「より高度な専門知識を獲得する場」(62.6%)、「より幅広い常識や教養を身につける場」(62.1%)が6割以上で挙げられた。これらに、「よい友達や先生と巡り会う場」(40.7%)、「よりよい就職をするための準備の場」(30.9%)、「より深く研究に打ち込む場」(23.4%)が続く。
- 性別では、「より高度な専門知識を獲得する場」は男性で、「よい友達や先生と巡り会う場」は女性で多い。
- 大学1・2年生では「より幅広い常識や教養を身につける場」を挙げる割合が高く、大学院生では「高度な専門知識を獲得すること」や「より深く研究に打ち込む」ことに焦点がおかれている。
- 専攻学科で見ると、「より高度な専門知識を獲得する場」「より深く研究に打ち込む場」は理系、「より幅広い常識や教養を身につける場」「よい友達や先生と巡り会う場」は文系で多い。

## 現在の生活の満足度 7割強が「今の生活に満足」

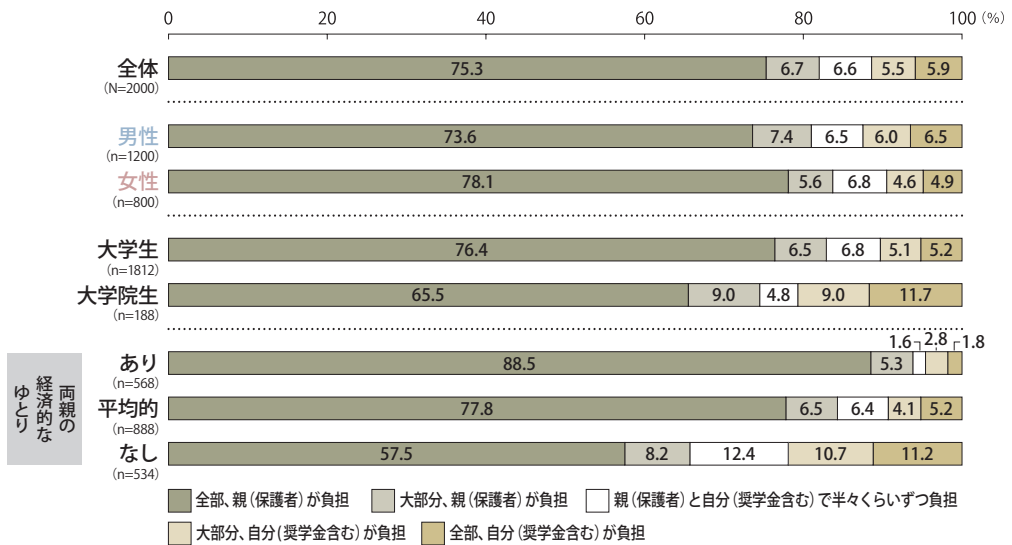


本人の  
経済的な  
ゆとり

- ・「満足」2割、「どちらかという満足」5割強、計7割強が現在の生活に「満足」と答えている。
- ・経済的にゆとりのある人のほうが満足度は高いという結果になっている。

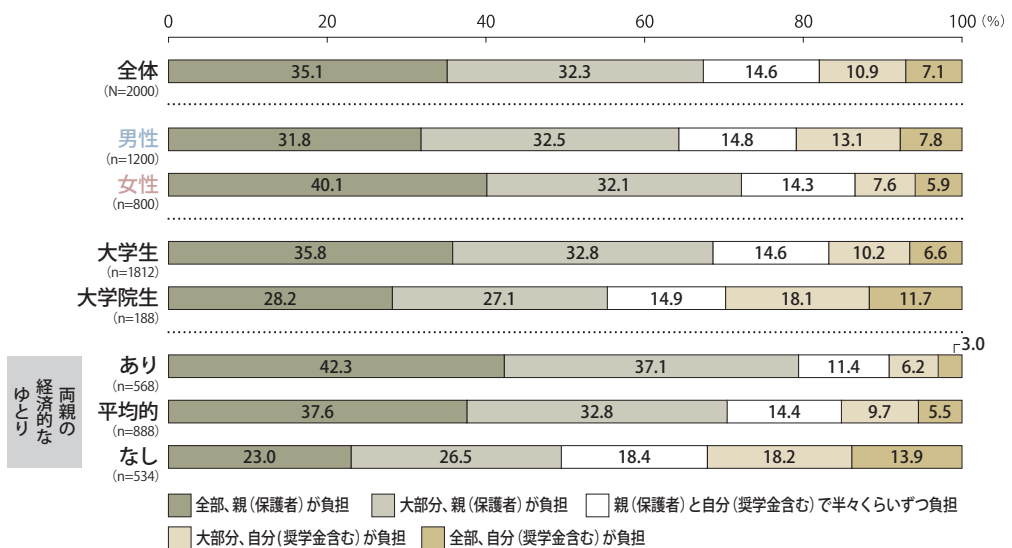
# 現在の生活の満足度

## 学費の負担 8割は保護者が学費を負担

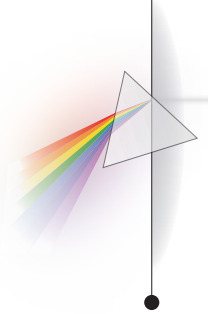


- 学費の全部を親が負担していると答えたのは全体の75.3割。「大部分保護者が負担」と合わせると8割以上を占めている。
- 男性より女性、大学院生より大学生で「全部、保護者が負担」の割合は高い。
- 両親に経済的なゆとりがある学生では、「全部、保護者が負担」という割合が9割近いが、ゆとりがない場合では自分で学費を負担する割合が高くなっている。

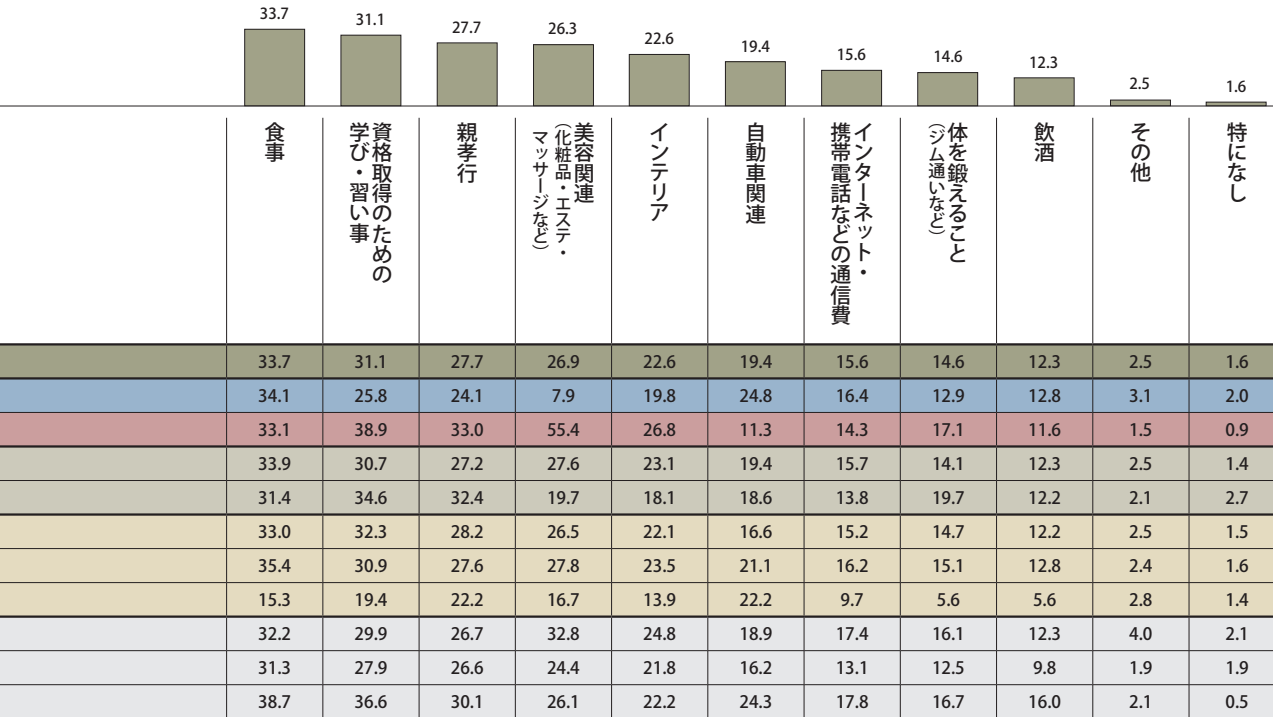
## 生活費の負担 2割近くは生活費を自己負担



- 生活費については学費よりも自分で負担している学生の割合が高い。自分の負担分のほうが多いとする学生は大学生で約15割、大学院生で約3割。両親の経済的なゆとりによる差が見られ、ゆとりがない場合では約3割となっている。



## 今よりもお金をかけたいこと (あてはまるものをすべて選択) 「趣味」と「貯金」が6割



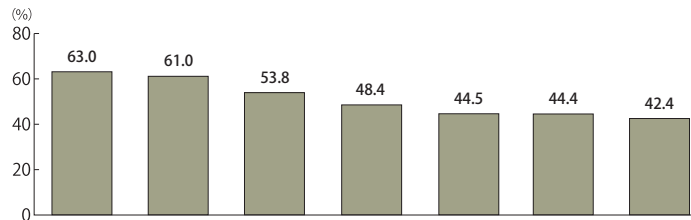
- ・今よりもお金をかけたいこととして、全体では「趣味」(63.0%)、「貯金」(61.0%)、「服飾関連」(53.8%)が多く挙げられている。
- ・性別で見ると、「パソコンやAV機器の購入」「自動車関連」は男性で多く、「貯金」「服飾関連」「旅行・レジャー」「資格取得のための学び・習い事」「親孝行」「美容関連」は女性で多い。

男性 (n=1200)

順位	項目	%
1	趣味	65.4
2	貯金	56.6
3	パソコンやAV機器の購入	50.2
4	旅行・レジャー	44.3
5	友だちとの付き合い	43.4
6	書籍の購入	42.0
7	服飾関連 (洋服・アクセサリーなど)	41.8
8	食事	34.1
9	資格取得のための学び・習い事	25.8
10	自動車関連	24.8
11	親孝行	24.1
12	インテリア	19.8
13	インターネット・携帯電話などの通信費	16.4
14	体を鍛えること (ジム通いなど)	12.9
15	飲酒	12.8
16	美容関連 (化粧品・エステ・マッサージなど)	7.9

女性 (n=800)

順位	項目	%
1	服飾関連 (洋服・アクセサリーなど)	71.8
2	貯金	67.5
3	趣味	59.4
4	美容関連 (化粧品・エステ・マッサージなど)	55.4
5	旅行・レジャー	54.6
6	書籍の購入	48.3
7	友だちとの付き合い	45.9
8	資格取得のための学び・習い事	38.9
9	食事	33.1
10	親孝行	33.0
11	パソコンやAV機器の購入	30.6
12	インテリア	26.8
13	体を鍛えること (ジム通いなど)	17.1
14	インターネット・携帯電話などの通信費	14.3
15	飲酒	11.6
16	自動車関連	11.3



	趣味	貯金	服飾関連 (洋服・アクセサリなど)	旅行・レジャー	書籍の購入	友だちとの付き合い	パソコンや AV機器の購入	
全体 (N=2000)	63.0	61.0	53.8	48.4	44.5	44.4	42.4	
男性 (n=1200)	65.4	56.6	41.8	44.3	42.0	43.4	50.2	
女性 (n=800)	59.4	67.5	71.8	54.6	48.3	45.9	30.6	
大学生 (n=1812)	64.2	61.8	55.0	47.8	43.5	45.5	42.2	
大学院生 (n=188)	51.6	53.2	42.0	53.7	54.3	33.5	44.1	
居住地	政令指定都市、東京23区 (n=795)	62.5	61.5	55.0	48.8	45.5	43.5	40.3
	上記以外の市 (n=1133)	63.5	60.5	53.5	47.9	44.5	45.3	43.8
	町村 (n=72)	59.7	62.5	44.4	51.4	33.3	40.3	43.1
経済的なゆとり	あり (n=472)	59.1	60.2	56.8	50.2	39.0	42.2	39.4
	平均的 (n=907)	62.2	59.6	51.6	47.3	44.2	43.2	40.4
	なし (n=612)	67.3	63.6	54.6	48.9	49.2	48.0	47.5

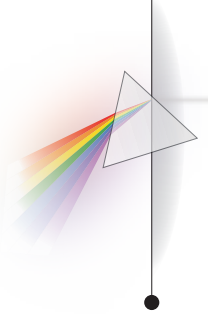
- ・大学/院で見ると、「趣味」「貯金」「服飾関連」「友だちとの付き合い」「美容関連」は大学生で、「旅行・レジャー」「書籍の購入」は大学院生が多い。
- ・現在の居住地で見ると、「服飾関連」「書籍の購入」「食事」「資格取得のための学び・習い事」「親孝行」「美容関連」「インテリア」などは、町村居住者で少ない。
- ・経済的なゆとりの有無別では、ゆとりのある層で「美容」、ない層で「パソコンやAV機器の購入」「食事」「資格取得のための学び・習い事」がそれぞれ高くなっている。

大学生 (n=1812)

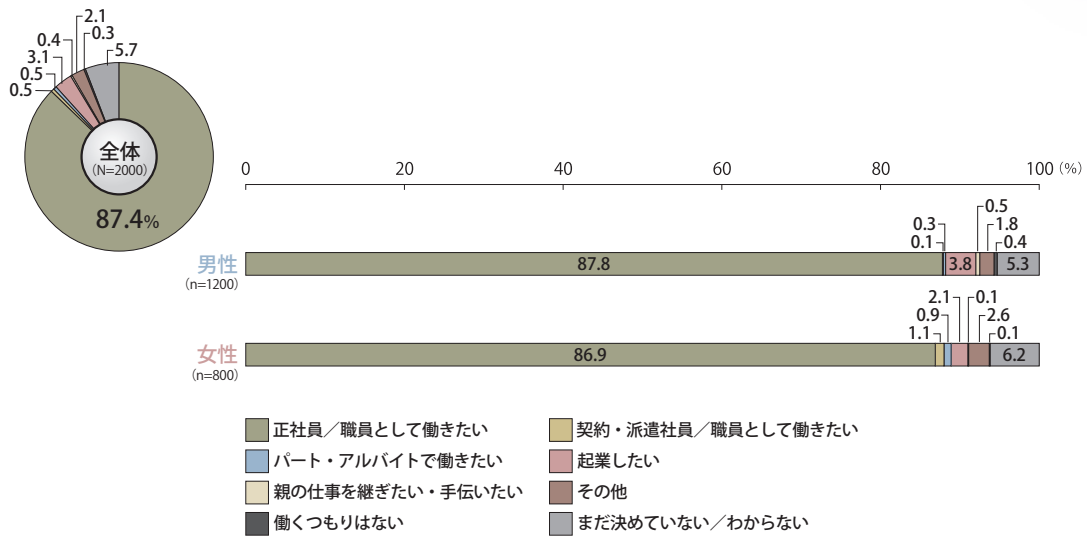
順位	Category	%
1	趣味	64.2
2	貯金	61.8
3	服飾関連 (洋服・アクセサリなど)	55.0
4	旅行・レジャー	47.8
5	友だちとの付き合い	45.5
6	書籍の購入	43.5
7	パソコンやAV機器の購入	42.2
8	食事	33.9
9	資格取得のための学び・習い事	30.7
10	美容関連 (化粧品・エステ・マッサージなど)	27.6
11	親孝行	27.2
12	インテリア	23.1
13	自動車関連	19.4
14	インターネット・携帯電話などの通信費	15.7
15	体を鍛えること (ジム通いなど)	14.1
16	飲酒	12.3

大学院生 (n=188)

順位	Category	%
1	書籍の購入	54.3
2	旅行・レジャー	53.7
3	貯金	53.2
4	趣味	51.6
5	パソコンやAV機器の購入	44.1
6	服飾関連 (洋服・アクセサリなど)	42.0
7	資格取得のための学び・習い事	34.6
8	友だちとの付き合い	33.5
9	親孝行	32.4
10	食事	31.4
11	美容関連 (化粧品・エステ・マッサージなど)	19.7
	体を鍛えること (ジム通いなど)	19.7
13	自動車関連	18.6
14	インテリア	18.1
15	インターネット・携帯電話などの通信費	13.8
16	飲酒	12.2

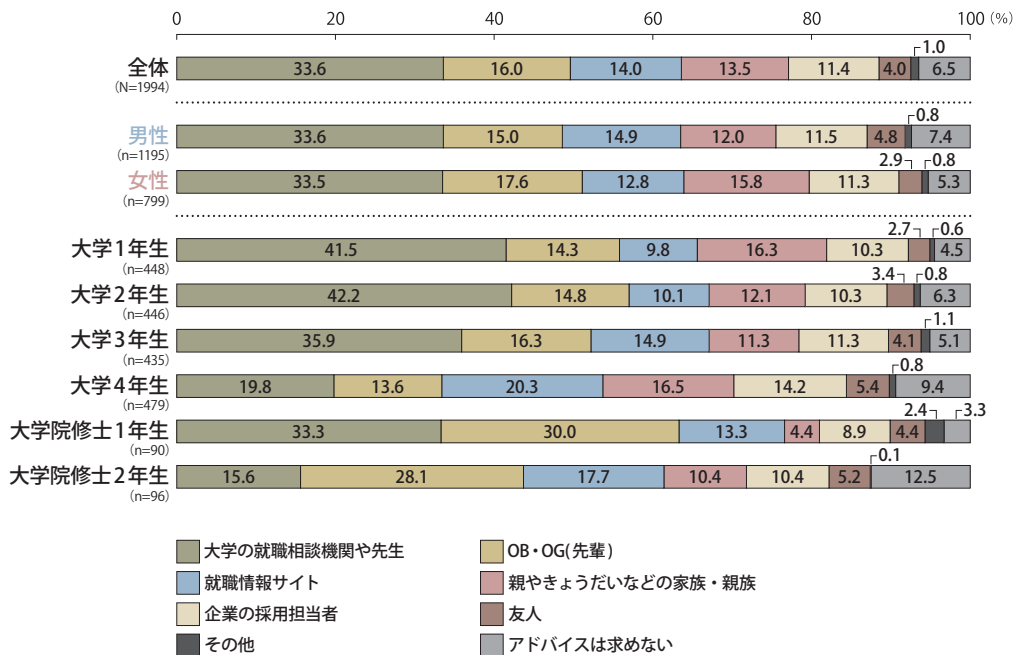


## 卒業後の働き方の希望 9割近くが正社員希望



## 就職先を選ぶ際の情報入手先 (最も重視したいものをひとつ選択) 低学年ほど大学関係者を重視

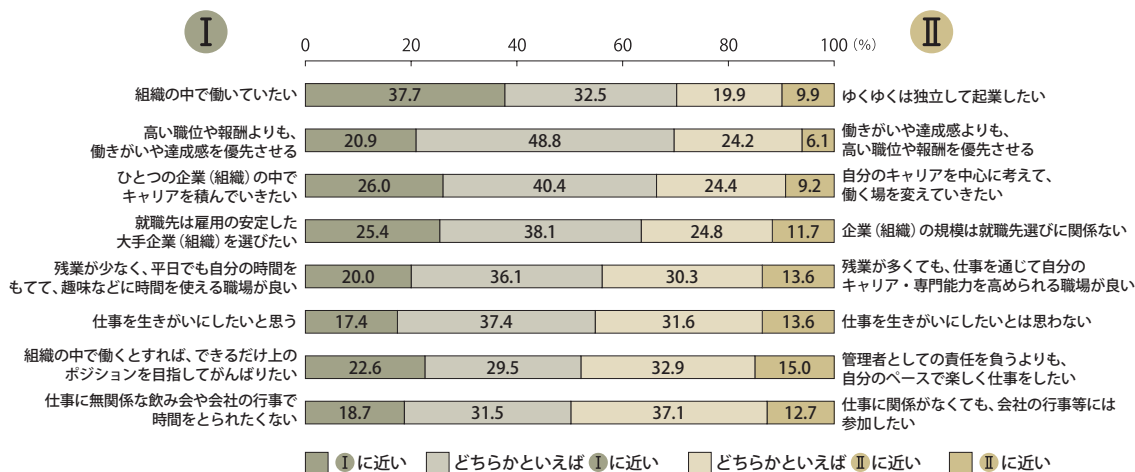
対象者：卒業後の働き方の希望で、「働くつもりはない」以外の人



- ・就職先を選ぶ際の情報入手先で最も重視するものとして、全体では、「大学の就職相談機関や先生」が最も多く(33.6%)、「OB・OG」(16.0%)、「就職情報サイト」(14.0%)、「親やきょうだいなどの家族・親族」(13.5%)が続く。
- ・学年で見ると、「大学」を重視する割合は低学年ほど高く、大学1・2年生では特に「大学の就職相談機関や先生」が4割以上と多い。大学4年生では「就職情報サイト」が多く、大学院修士2年生では「アドバイスは求めない」も1割以上と多くなっている。

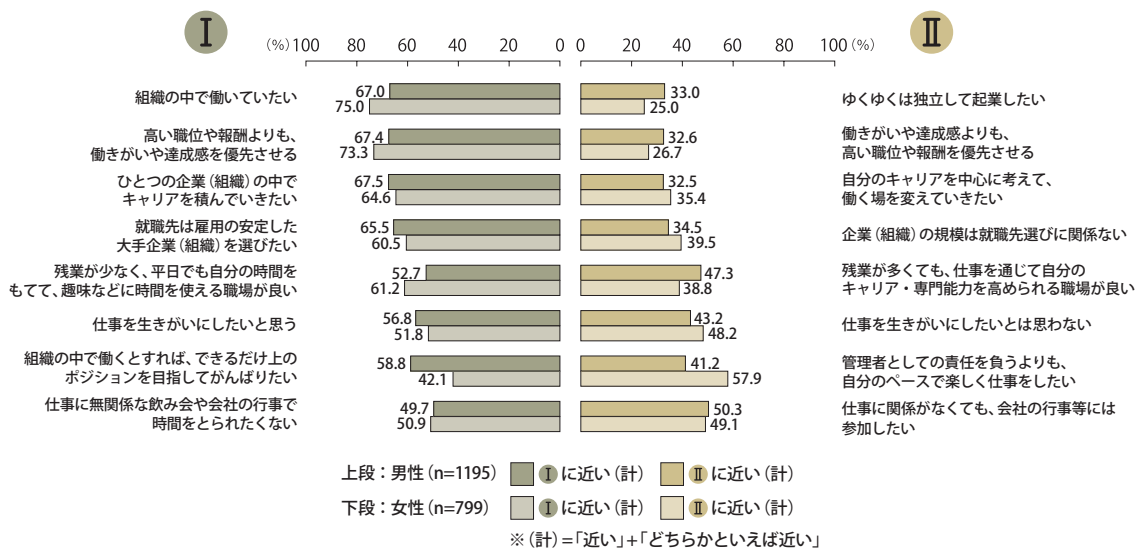
就職・働き方について

## キャリア意識 (I・IIのうち近いほうを選択) 安定した環境でやりがいのある仕事を



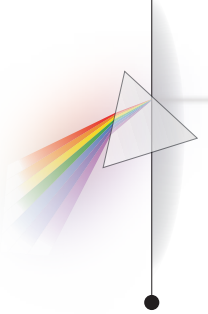
- ・キャリア意識について対照的な考えを提示し、どちらが希望に近いカタズねたところ、全体では、組織志向(「組織の中で働いていたい」)、働きがい優先志向(「高い職位や報酬よりも、働きがいや達成感を優先させる」)、安定志向(「ひとつの企業(組織)の中でキャリアを積んでいきたい」、「就職先は雇用の安定した大手企業を選びたい」)が強い傾向が見られた。
- ・「残業か、キャリアか」「仕事を生きがいにしたいか」「上のポジションを目指したいか」「会社の行事に参加したいか」等、価値観が二分する項目も多い。

## キャリア意識の男女比較 男性同士・女性同士でも価値観が分かれる

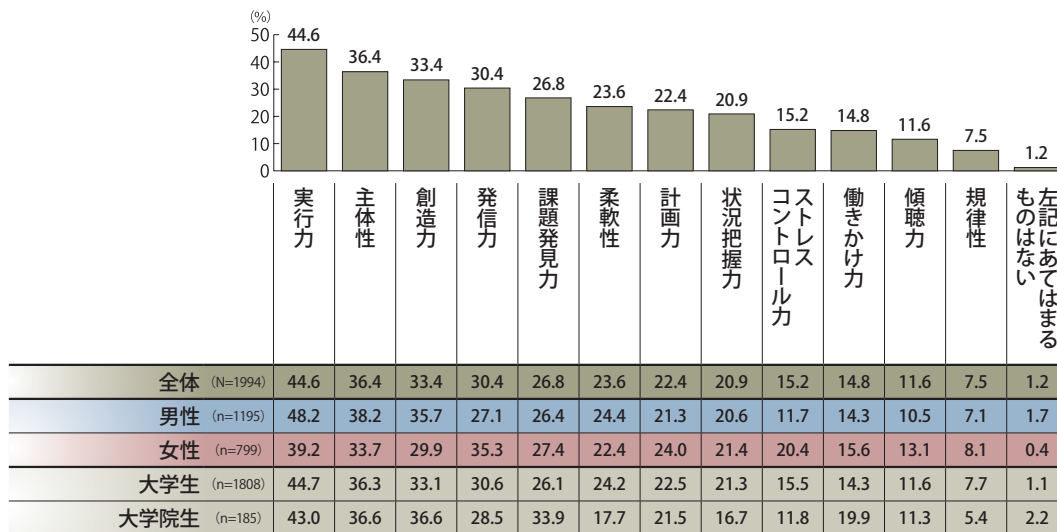


- ・「就職先は雇用の安定した大手企業を選びたい」「仕事を生きがいにしたいと思う」「組織の中で働くとするれば、できるだけ上のポジションを目指してがんばりたい」という意見は、女性より男性で多い。
- ・一方、「組織の中で働いていたい」「高い職位や報酬よりも、働きがいや達成感を優先させる」「残業が少なく、平日でも自分の時間をもてて、趣味などに時間を使える職場が良い」という意見は、男性より女性で多い。
- ・男性同士・女性同士でも考え方が分かれている点も注目される。たとえば「組織の中で働くとするれば、できるだけ上のポジションを目指してがんばりたい」は女性より男性で多いが、男性でも4割以上が「管理者としての責任を負うよりも、自分のペースで楽しく仕事をしたい」と考えている。同様の傾向が、「残業か、キャリアか」「仕事を生きがいにしたいか」等の項目にもあてはまる。





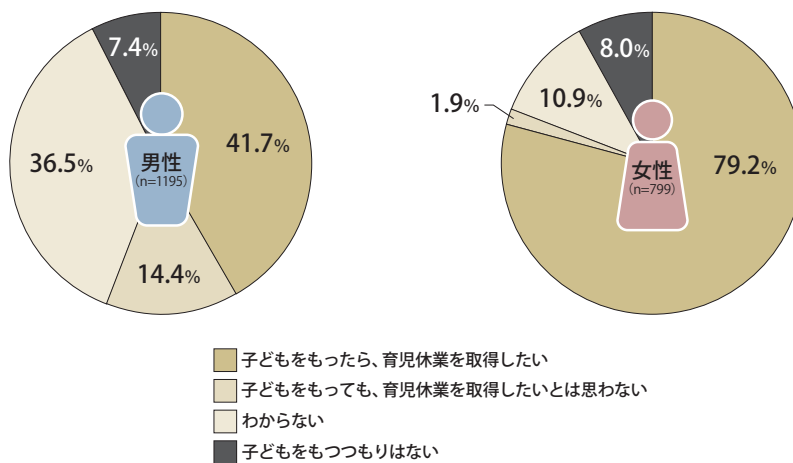
## 今後伸ばしておきたい力 (3つまで選択) 積極的に行動する力を志向



- ・「将来社会人として仕事をしていくために、今後伸ばしておきたい力」についてたずねたところ、全体では「実行力」(44.6%)が最も多く挙げられ、「主体性」(36.4%)、「創造力」(33.4%)、「発信力」(30.4%)が続いた。積極的に行動していくための「力」が志向されている。
- ・女性では5人に1人が「ストレスコントロール力」を挙げている。

## 育児休業の取得希望 女性約8割、男性約4割

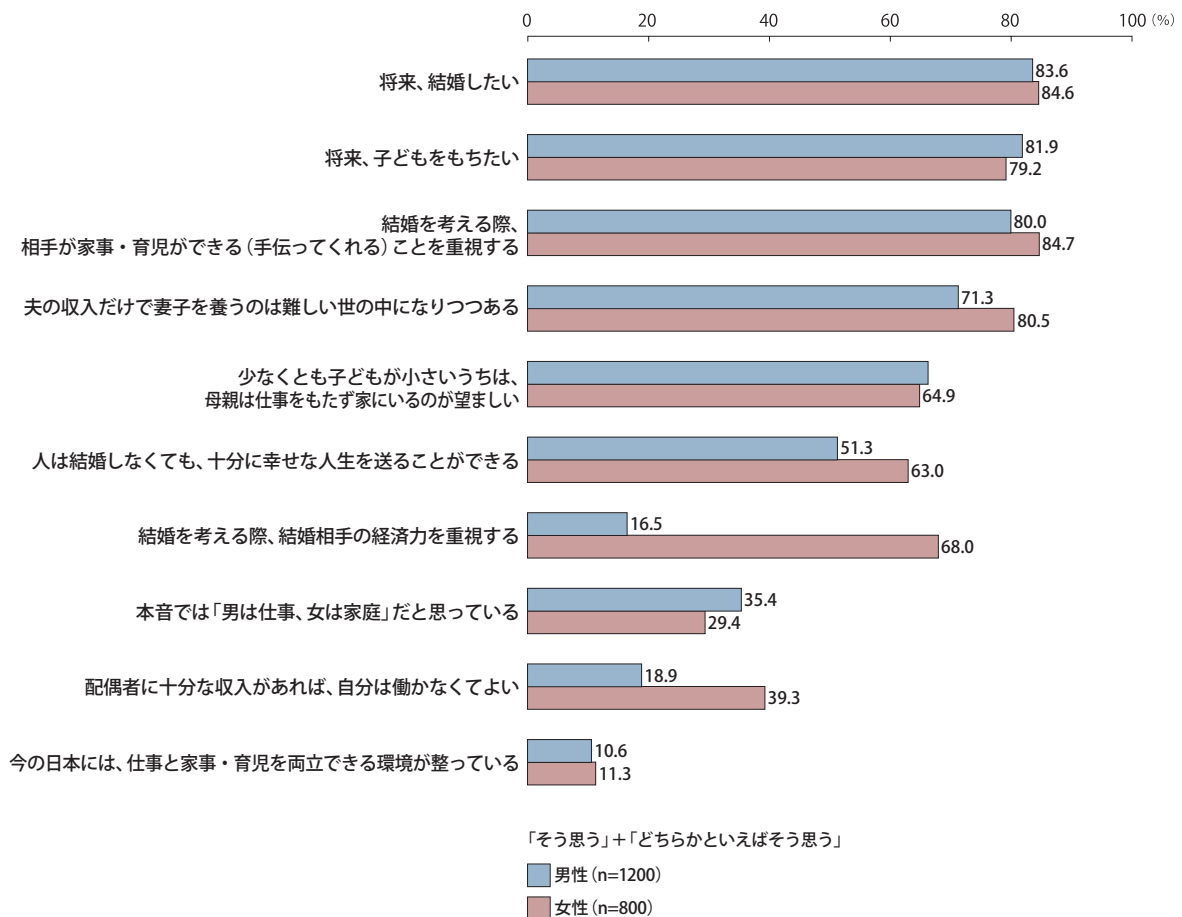
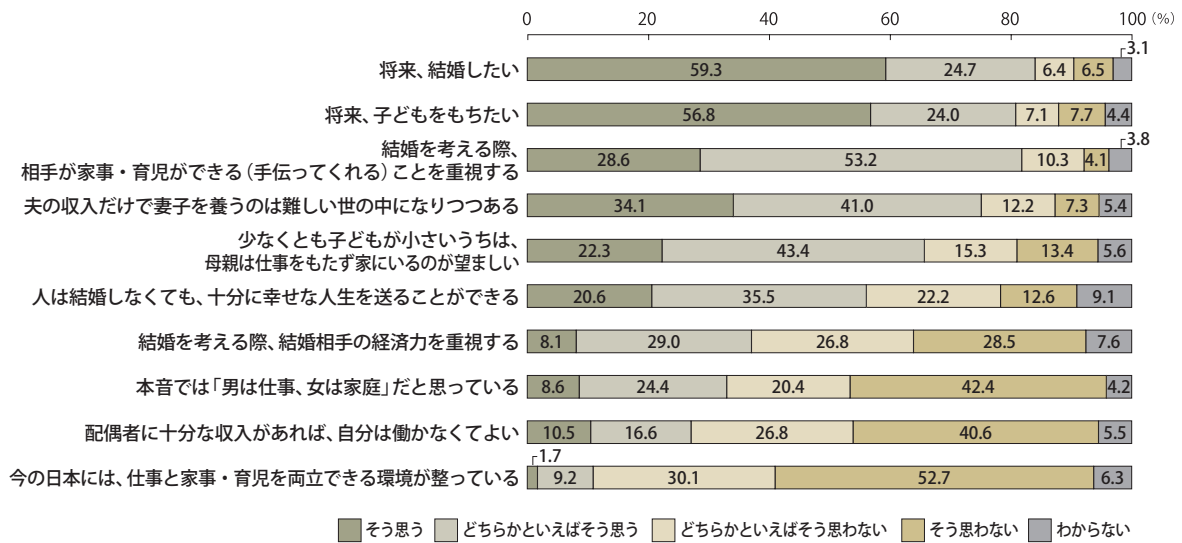
対象者：卒業後の働き方の希望で「働くつもりはない」以外の人



- ・女性では79.2%、男性でも41.7%が育児休業の取得を希望している。

※育児休業とは、原則として1歳に満たない子を養育するための休業。一定の要件を満たせば、男女とも取得することができる。

## 家族観・男女の役割について 「男は仕事、女は家庭」は少数派

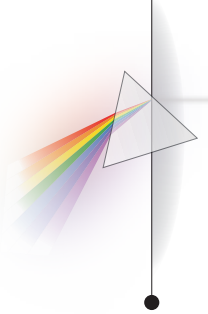


- ・「将来、結婚したい」「将来、子どもをもちたい」という希望については、8割以上が「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答。
- ・性別役割については、「夫の収入だけで妻子を養うのは難しい世の中になりつつある」(75.1%)と感じており、「本音では『男は仕事、女は家庭』だと思っている」(33.0%)との考えは少数派となっている。
- ・一方、「今の日本には、仕事と家事・育児を両立できる環境が整っている」(10.9%)とは感じておらず、「少なくとも子どもが小さいうちは、母親は仕事をもちたず家にいるのが望ましい」(65.7%)との意識は根強い。

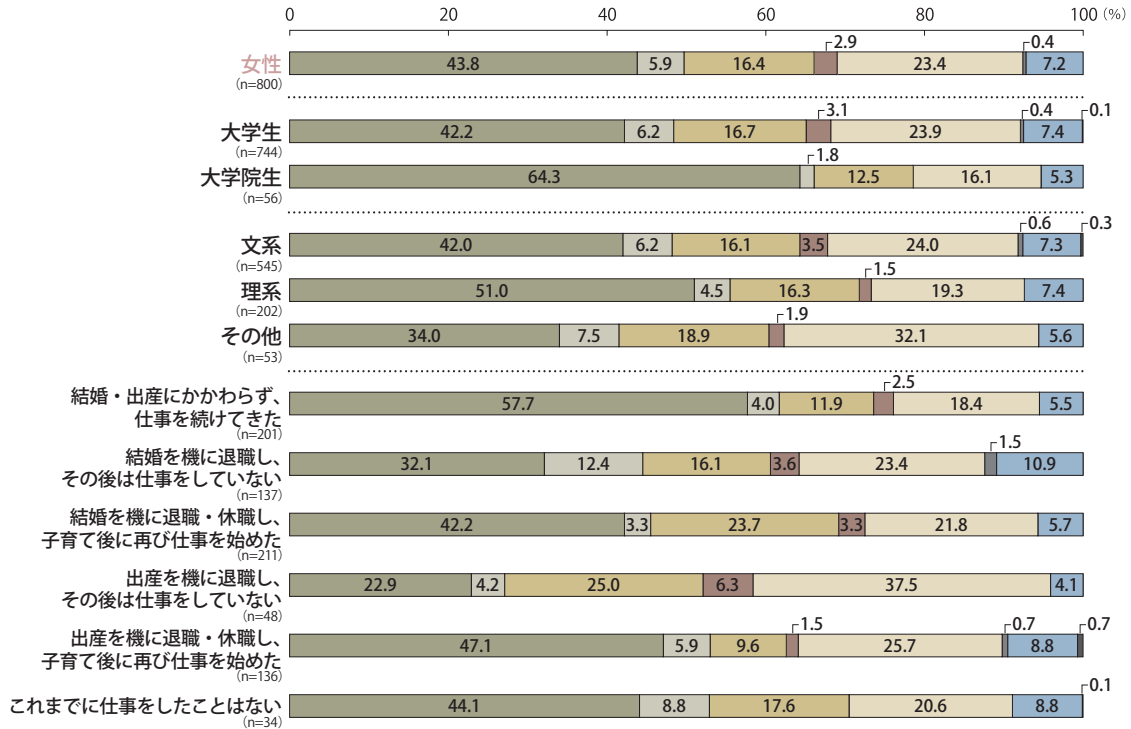


## 女性の希望するライフコース

# 「結婚・出産にかかわらず仕事を続けたい」が4割強



対象者：女性



母親の働き方

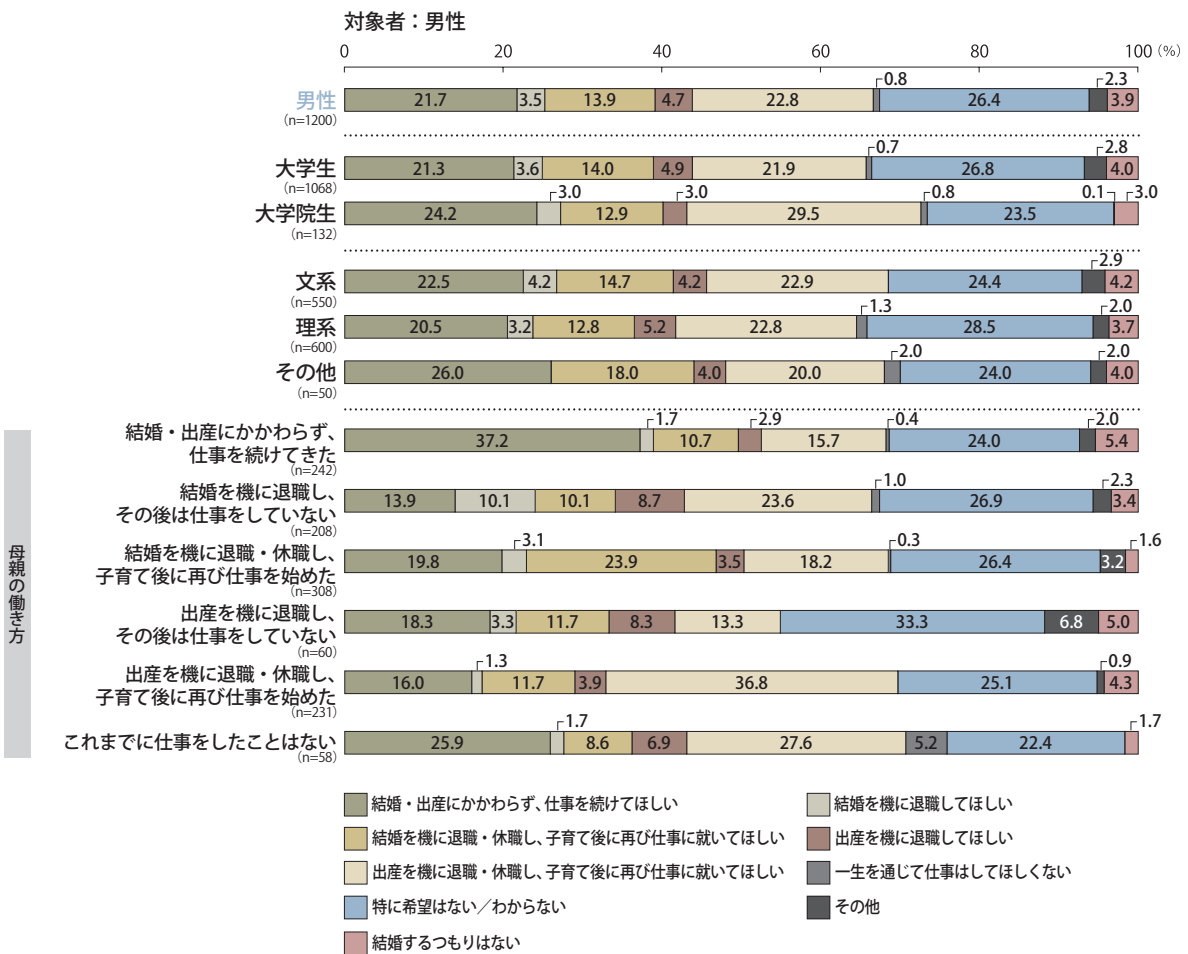
- 結婚・出産にかかわらず、仕事を続けたい
- 結婚を機に退職し、その後は仕事に就きたくない
- 結婚を機に退職・休職し、子育て後に再び仕事に就きたい
- 出産を機に退職し、その後は仕事に就きたくない
- 出産を機に退職・休職し、子育て後に再び仕事に就きたい
- 一生を通じて仕事には就きたくない
- 特に希望はない／わからない
- その他

- ・女性を対象に、希望するライフコースをたずねたところ、「結婚・出産にかかわらず、仕事を続けたい」が、全体の43.8%と最も多く、次に「出産を機に退職・休職し、子育て後に再び仕事に就きたい」(23.4%)、「結婚を機に退職・休職し、子育て後に再び仕事に就きたい」(16.4%)が多い。
- ・「結婚・出産にかかわらず、仕事を続けたい」との希望は、大学生より大学院生で多く、6割強に上っている。
- ・専攻別では、文系より理系で「結婚・出産にかかわらず、仕事を続けたい」とする割合が高い。
- ・母親が「結婚・出産にかかわらず、仕事を続けてきた」という人では、本人も「結婚・出産にかかわらず、仕事を続けたい」とする割合が高く、母親と同じようなライフコースを望む傾向が見られる。

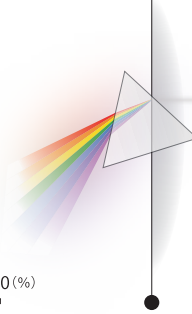


## 男性が希望する配偶者のライフコース

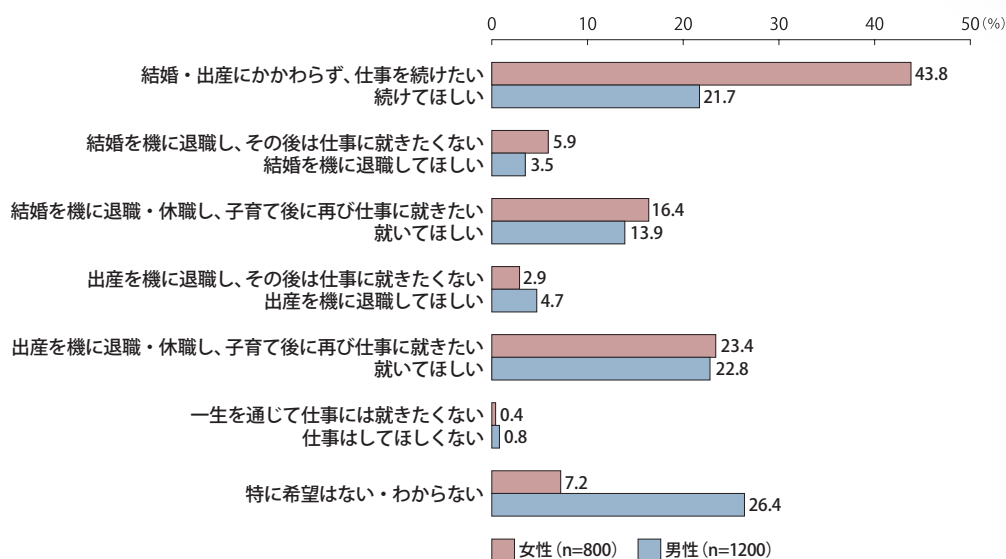
### 「特に希望はない／わからない」が3割弱



・男性を対象に、将来配偶者に希望するライフコースをたずねたところ、「特に希望はない／わからない」が最も多く、全体の26.4%を占めた。続いて、「出産を機に退職・休職し、子育て後に再び仕事に就いてほしい」(22.8%)、「結婚・出産にかかわらず、仕事を続けてほしい」(21.7%) という意見が多い。女性同様、希望は自身の母親の働き方と強く関連している。

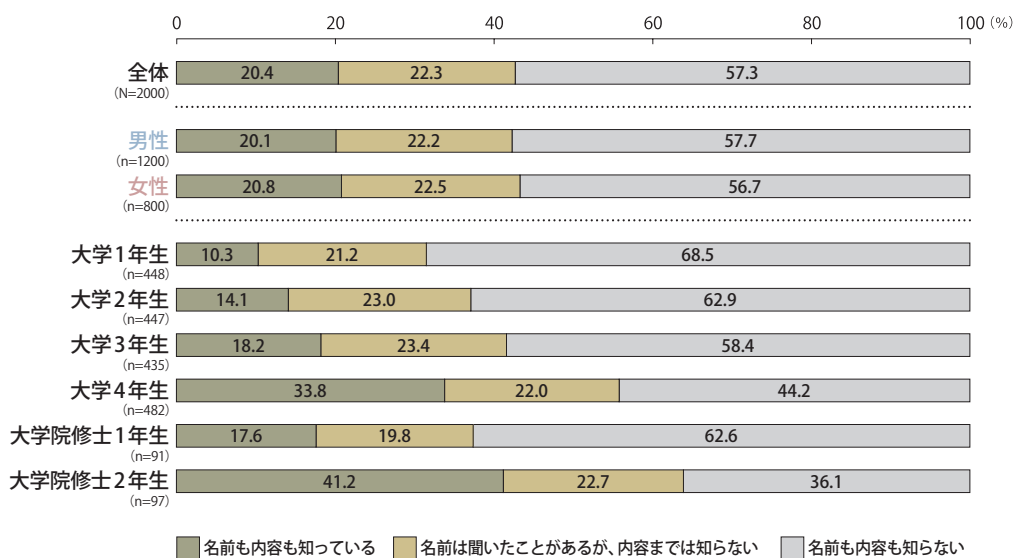


## 女性のライフコースに対する男女の意識差 働きたい女性と、強く望まない男性



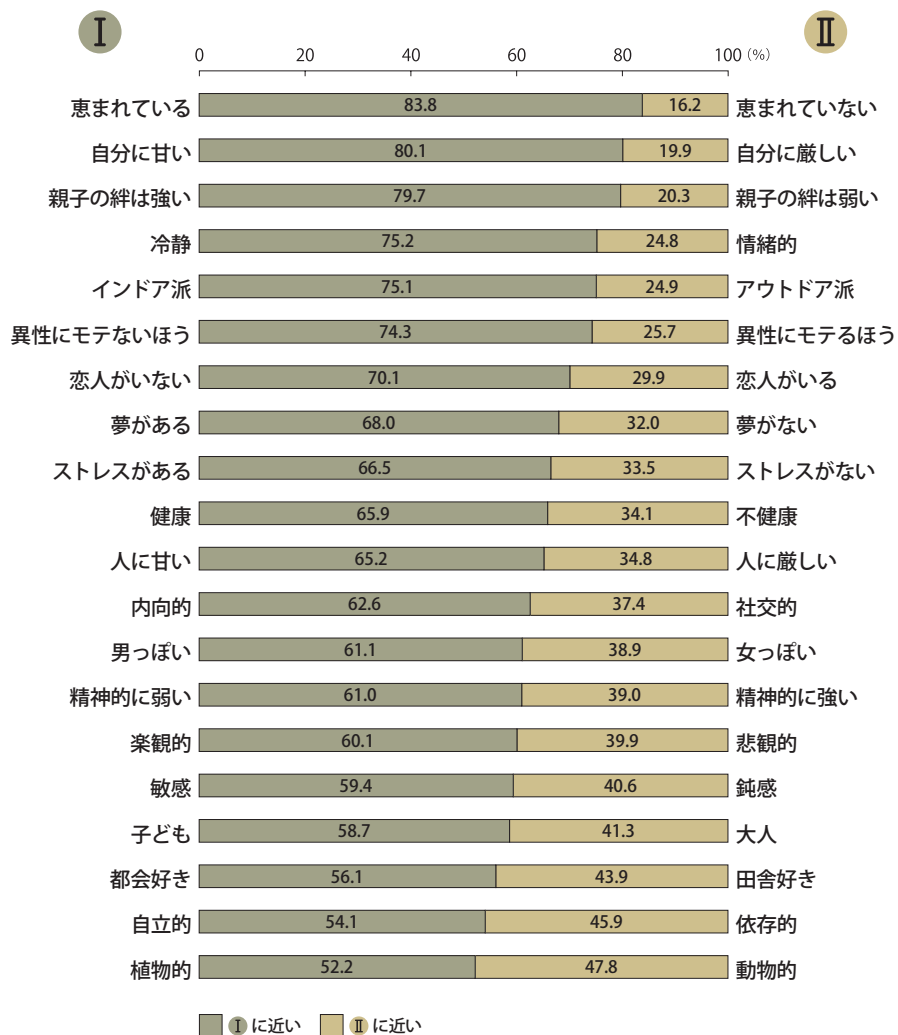
- ・女性が希望するライフコースと男性が配偶者に希望するライフコースについて、比較したのが上記グラフである。
- ・女性では「結婚・出産にかかわらず、仕事を続けたい」が、男性の「続けてほしい」の2倍以上となっている。その代わりに、男性では、「特に希望はない・わからない」が26.4%と多い。

## ワーク・ライフ・バランスの認知度 「名前も内容も知らない」が6割

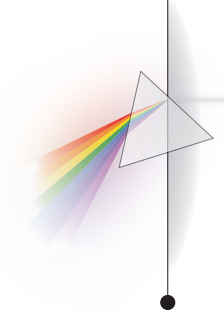


- ・「ワーク・ライフ・バランス」についてたずねたところ、「名前も内容も知らない」が全体の6割近くを占め、20.4%が「名前も内容も知っている」、22.3%が「名前は聞いたことがあるが、内容までは知らない」と回答した。
- ・男女間で認知度に大きな差は見られない。
- ・学年で見ると、大学生、大学院生ともに、それぞれ学年が上がるほど認知度は高く、大学4年生では33.8%、大学院修士2年生では41.2%が「名前も内容も知っている」と回答。働くことを自分のこととしてとらえるようになる中で、ワーク・ライフ・バランスへの意識も高まっている。

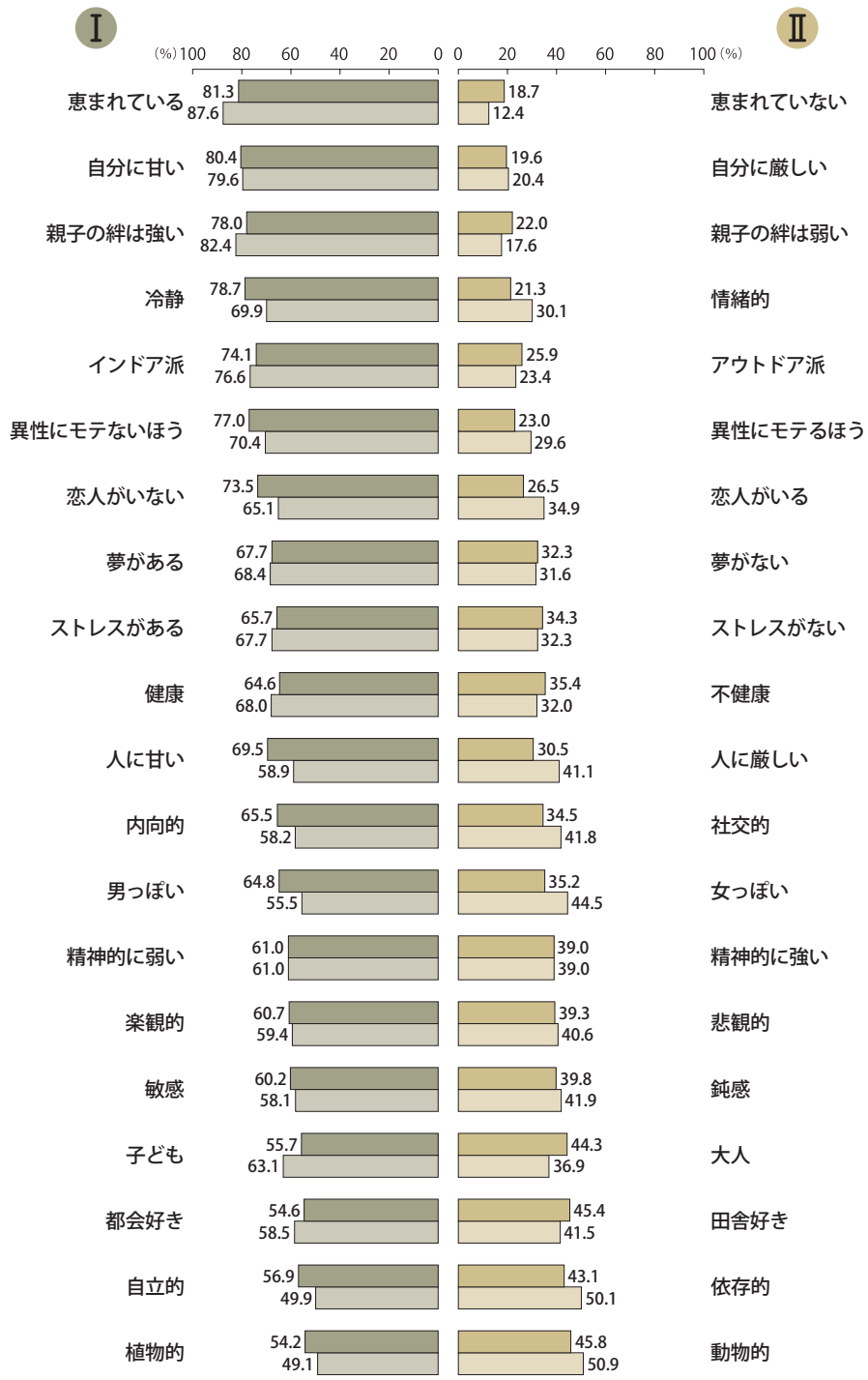
## 自己イメージ (I・IIのうち近いほうを選択) 豊かな時代に育った冷静なインドア派



・グラフは、価値観や行動特性について対照的なキーワードを提示し、自分に近いと思うほうの選択を求めた結果を示している。最も多くの人に選ばれたのは、「恵まれている」(83.8%)。この他、「自分に甘い」「親子の絆は強い」「冷静」「インドア派」「異性にモテないほう」「恋人がいない」が全体の7割以上に選択されている。



# 自己イメージの男女比較 「自分は子ども」男性よりも女性に多い

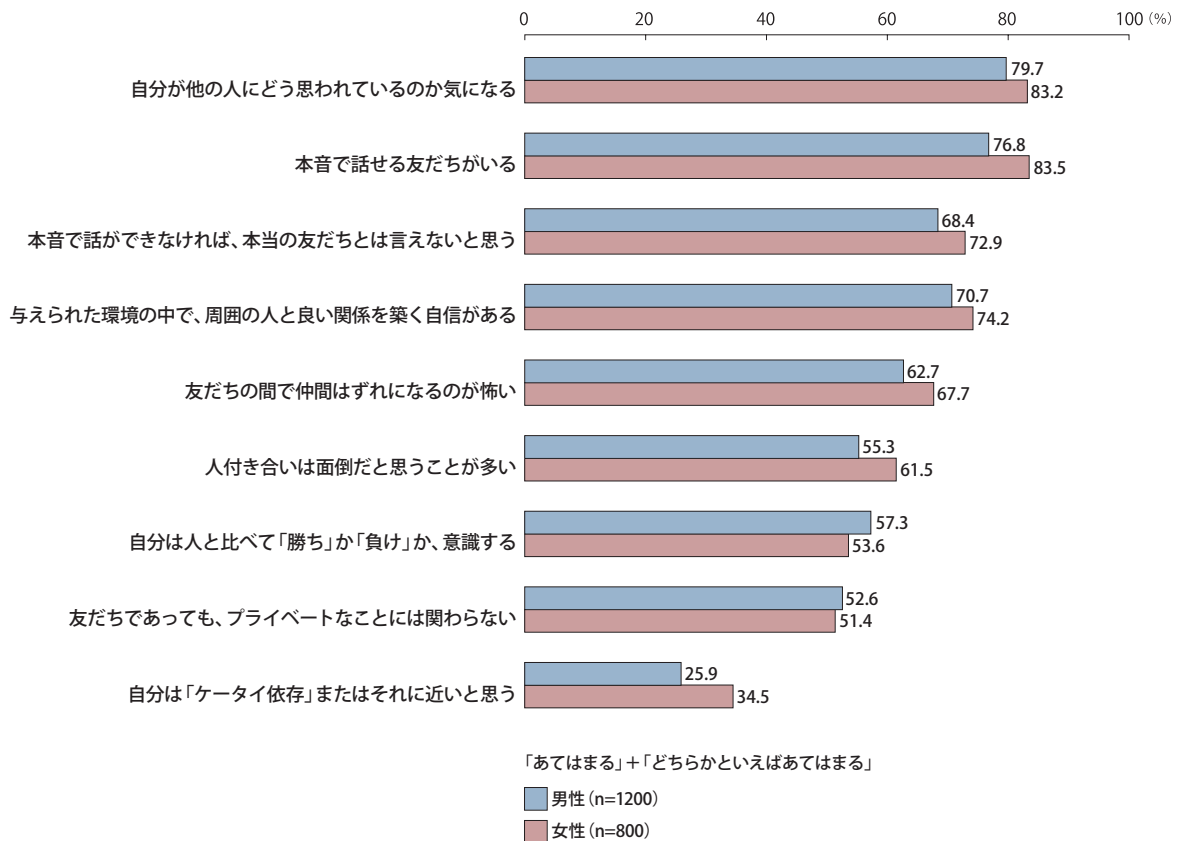
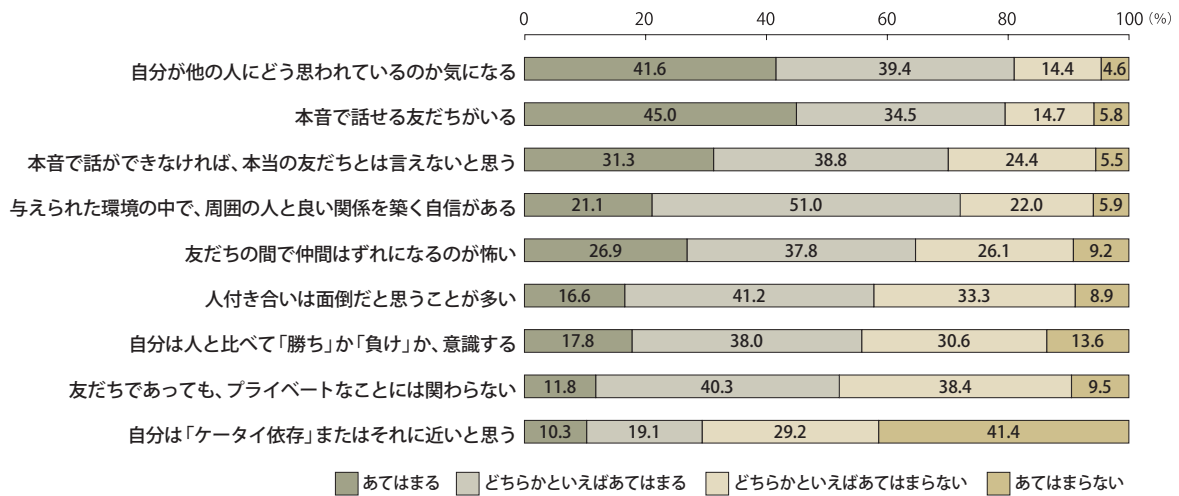


上段：男性 (n=1200) ①に近い ②に近い  
下段：女性 (n=800) ①に近い ②に近い

・男女間で比較すると、「冷静」「異性にモテないほう」「恋人がいない」「人に甘い」「内向的」「男っぽい」「自立的」「植物的」という回答は女性より男性で多く、「恵まれている」「子ども」は男性より女性で多くなっている。

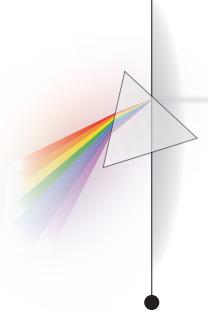
自己イメージ・人とのかわり方

## 人とのかかわり方 「本音で話せる友達がいる」約8割

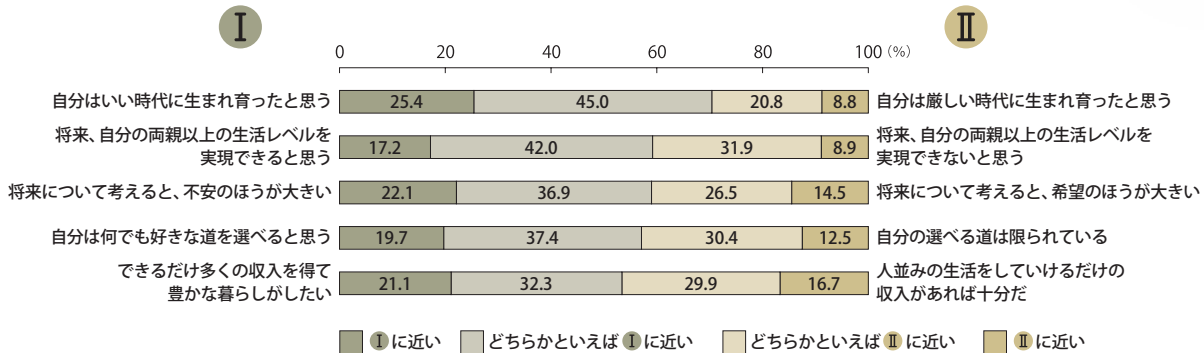


- ・約8割が「本音で話せる友だちがいる」と回答。「与えられた環境の中で周囲と良い関係を築く自信がある」も7割を超えている。一方で、「友だちの間で仲間はずれになるのが怖い」「人付き合いは面倒だと思うことが多い」「友だちであってもプライベートなことには関わらない」も半数以上を占め、彼らの人間関係の緊張感が感じられる結果となっている。
- ・「自分は『ケータイ依存』またはそれに近いと思う」については、約7割が「あてはまらない」「どちらかといえばあてはまらない」と回答し、否定的意見が多い。



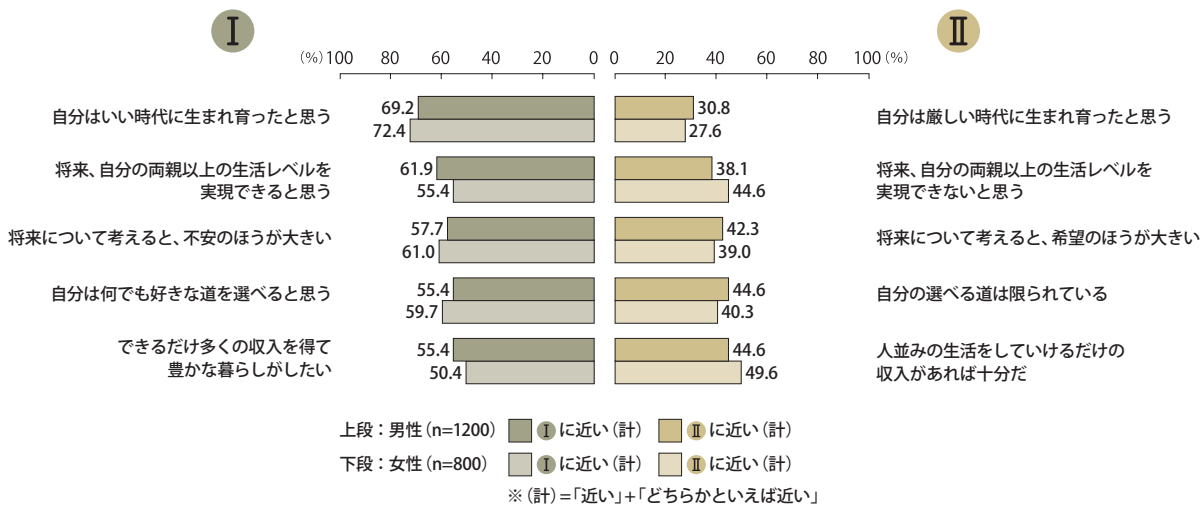


## 生まれ育った時代への評価と将来への見通し (Ⅰ・Ⅱのうち近いほうを選択) 「自分はいい時代に生まれ育った」が7割



- ・「自分はいい時代に生まれ育ったと思う」が7割を超え、「自分は厳しい時代に生まれ育った」を上回っている。
- ・一方、「将来について考えると、不安のほうが多い」が約6割を占め、「将来、自分の両親以上の生活レベルを実現できないと思う」「自分の選べる道は限られている」も、少数派ではあるが4割に上っている。
- ・「できるだけ多くの収入を得て、豊かな暮らしがしたい」と「人並みの生活をしていけるだけの収入があれば十分だ」とが半々に分かれている点も注目される。

## 生まれ育った時代への評価と将来への見通し (男女別) 「親以上の生活レベルを実現できる」は男性が多い

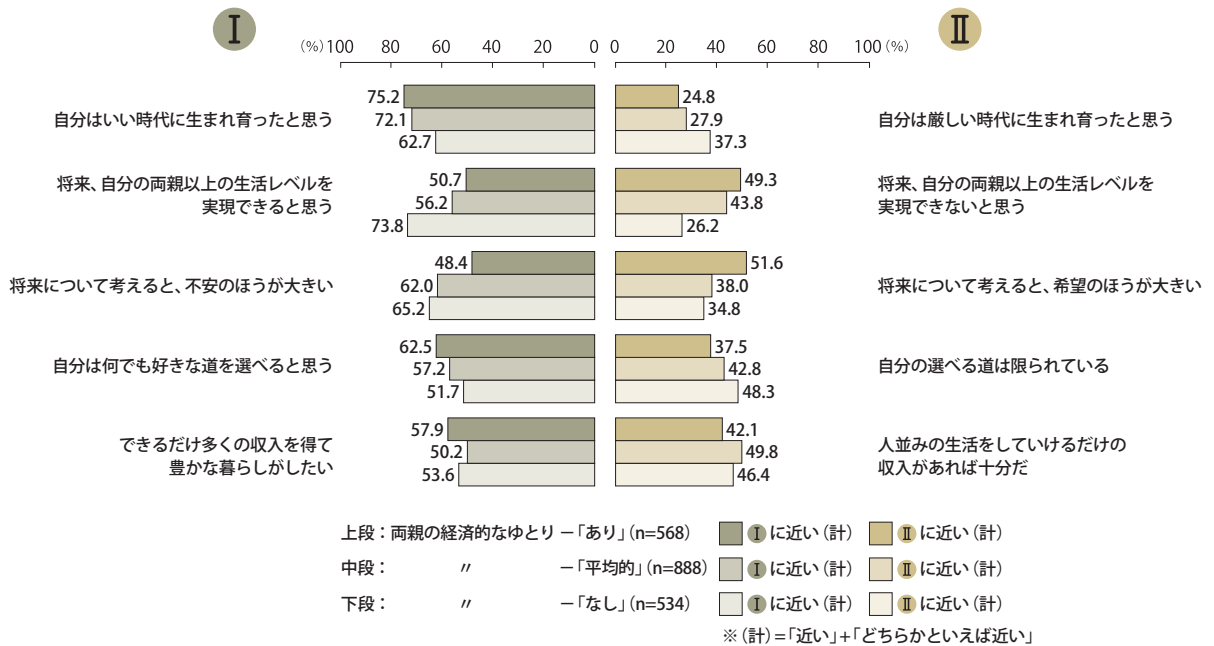


- ・「将来、自分の両親以上の生活レベルを実現できると思う」「できるだけ多くの収入を得て豊かな暮らしがしたい」という意見は、女性より男性が多い。

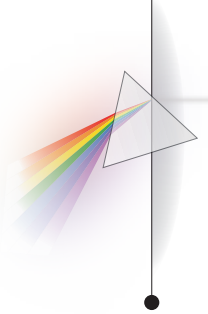
将来に向けた希望・見通し

# 生まれ育った時代への評価と将来への見通し（両親の経済的なゆとり別）

## 経済的なゆとりがあるほうが「親の生活レベルを超えるのは難しい」



- ・両親に経済的なゆとりのある人のほうが、「自分はいい時代に生まれ育ったと思う」「将来について考えると、希望のほうが大きい」「自分は何でも好きな道を選べると思う」と感じている。一方、現在ゆとりのある人ほど、「将来、自分の両親以上の生活レベルを実現できないと思う」とも感じている点が注目される。
- ・「できるだけ多くの収入を得て豊かな暮らしがしたい」という意見は、両親に経済的なゆとりがある人で最も多く、平均的な人で最も少ない。

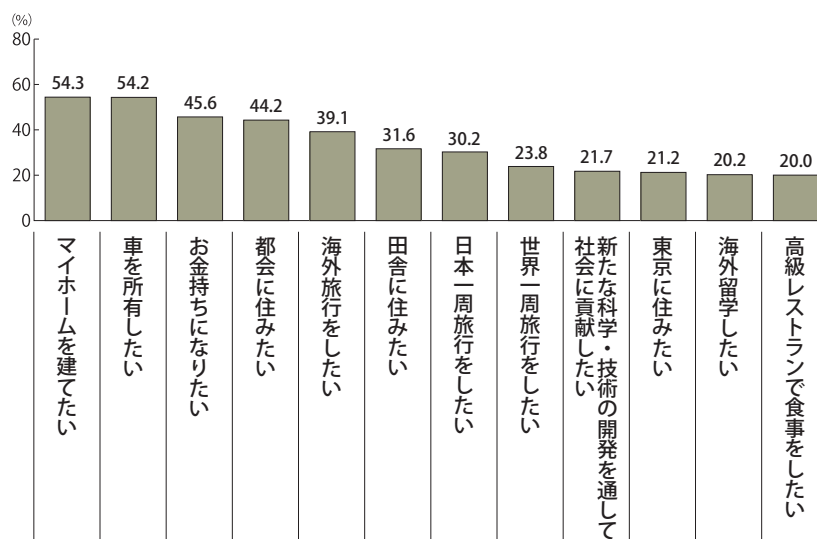


将来への希望 (あてはまるものをすべて選択)

欲しいのは「マイホーム」と「車」

	19.3	18.1	15.8	15.6	14.8	14.3	12.9	12.6	11.2	10.6	8.9	8.1	8.0	4.3	3.4	3.0
世界平和や国際問題の解決に貢献したい	19.3	18.1	15.8	15.6	14.8	14.3	12.9	12.6	11.2	10.6	8.9	8.1	8.0	4.3	3.4	3.0
歴史に名を残すことを成し遂げたい	18.0	21.7	14.6	18.5	14.7	11.0	11.8	14.2	10.8	9.7	10.3	5.8	3.6	5.8	3.3	3.2
海外で働きたい	21.1	12.8	17.6	11.1	14.9	19.3	14.4	10.1	11.9	12.0	6.8	11.6	14.5	2.1	3.6	2.6
高級車を所有したい	19.2	17.4	15.3	15.2	14.9	14.5	13.5	12.6	11.1	10.6	8.9	8.3	8.3	4.5	3.5	3.0
有名人になりたい	19.7	24.5	20.7	18.6	13.3	12.2	6.4	12.2	12.2	10.6	9.0	5.9	4.8	2.7	2.7	2.1
高級ブランド品を身につけたい	21.8	16.6	17.5	16.3	15.8	17.6	14.4	12.5	13.0	10.5	9.9	10.0	10.1	5.4	4.3	3.4
自分の店を持ちたい	16.1	20.1	14.0	15.6	13.1	10.5	10.1	12.8	8.9	11.0	7.4	6.0	4.7	3.2	2.6	2.4
別荘を持ちたい	16.5	18.4	11.7	7.8	16.5	8.7	17.5	10.7	10.7	8.7	10.7	3.9	9.7	1.0	0.0	2.9
高級住宅街に住みたい	21.3	17.0	16.1	15.3	13.6	15.0	14.0	13.7	12.6	10.1	10.9	9.4	8.3	4.2	3.6	3.3
自給自足の生活をしたい	17.9	18.8	15.7	15.9	15.6	14.3	12.1	11.7	10.4	10.9	7.5	7.2	7.8	4.5	3.4	2.8
社長になりたい	18.1	19.4	13.9	12.5	13.9	6.9	12.5	13.9	8.3	12.5	8.3	6.9	6.9	2.8	0.0	1.4
大富豪と結婚したい	19.1	20.1	16.7	21.0	16.5	19.7	14.6	12.7	14.2	11.0	10.4	9.3	9.7	4.0	4.2	3.0
国際結婚をしたい	17.0	16.1	14.7	12.8	12.7	12.2	10.7	11.2	10.6	9.7	7.8	7.3	7.1	4.4	2.4	3.1
政治家になりたい	22.9	19.3	16.8	15.7	16.3	13.2	14.7	14.4	9.8	11.8	9.5	8.2	7.8	4.2	3.9	2.5
ホテル住まいをしたい																
左記にあてはまるものはない																

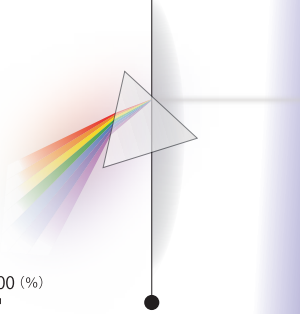
・将来の希望についてたずねたところ、「マイホームを建てたい」(54.3%)、「車を所有したい」(54.2%) が過半数で挙げられた。これらに、「お金持ちになりたい」(45.6%)、「都会に住みたい」(44.2%)、「海外旅行をしたい」(39.1%)、「田舎に住みたい」(31.6%) が続く結果となっている。



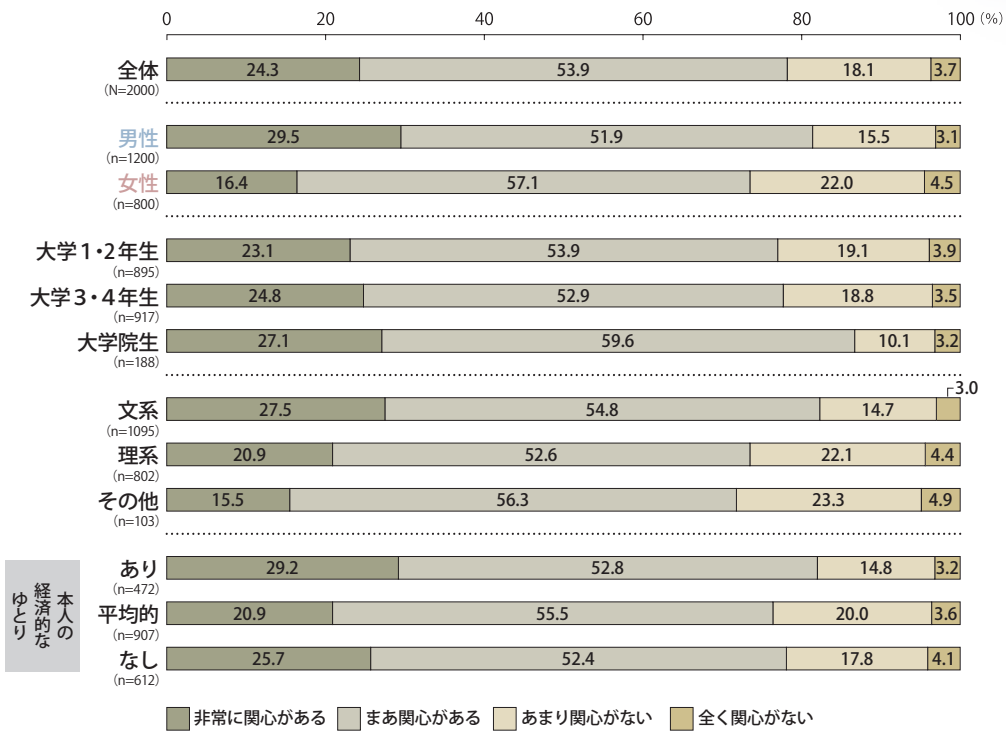
	マイホームを建てたい	車を所有したい	お金持ちになりたい	都会に住みたい	海外旅行をしたい	田舎に住みたい	日本一周旅行をしたい	世界一周旅行をしたい	新たな科学・技術の開発を通して社会に貢献したい	東京に住みたい	海外留学したい	高級レストランで食事をしたい
全体 (N=2000)	54.3	54.2	45.6	44.2	39.1	31.6	30.2	23.8	21.7	21.2	20.2	20.0
男性 (n=1200)	56.0	56.3	46.3	42.1	31.1	32.3	29.9	19.9	27.2	19.6	15.6	16.7
女性 (n=800)	51.6	51.0	44.6	47.4	51.0	30.4	30.5	29.5	13.5	23.5	27.1	25.0
大学生 (n=1812)	54.6	54.7	46.2	44.4	39.2	31.5	29.9	23.2	20.1	21.1	20.4	20.2
大学院生 (n=188)	50.5	49.5	39.9	42.0	37.8	31.9	33.0	29.3	36.7	21.3	18.6	18.1
文系 (n=1095)	52.7	51.7	47.1	46.8	42.9	30.7	32.2	26.4	7.9	22.7	23.2	22.0
理系 (n=802)	56.0	58.1	44.6	41.5	34.2	32.3	27.6	20.9	40.1	18.6	16.3	17.1
その他 (n=103)	57.3	50.5	36.9	36.9	35.9	35.0	28.2	17.5	24.3	24.3	18.4	21.4
現在の居住地												
政令指定都市、東京23区 (n=795)	51.9	50.4	43.9	48.7	40.9	27.0	30.6	24.5	21.8	23.8	20.9	20.3
上記以外の市 (n=1133)	56.7	56.5	46.4	41.4	38.4	33.8	29.7	23.3	21.2	19.6	20.2	20.2
町村 (n=72)	41.7	59.7	51.4	38.9	29.2	45.8	31.9	22.2	29.2	16.7	12.5	13.9
ゆとり												
経済的な												
本人の												
あり (n=472)	54.0	50.8	46.4	48.3	40.5	29.7	28.0	26.3	21.2	23.7	21.0	23.9
平均的 (n=907)	54.4	53.5	42.9	44.1	38.3	31.2	29.5	22.4	20.3	19.8	19.2	18.0
なし (n=612)	54.4	58.2	49.2	41.7	39.2	33.8	32.8	23.9	24.2	21.4	21.1	19.9

## 将来への希望 (属性による比較) 女性に強い海外志向

- 性別で見ると、男性では「新たな科学・技術の開発を通して社会に貢献したい」が女性と比べて多い。女性では「海外旅行をしたい」「世界一周旅行をしたい」「海外留学したい」「国際結婚したい」などが多く、男性よりも海外志向が強い。
- 大学/院で見ると、「お金持ちになりたい」は大学生で多く、「世界一周旅行をしたい」「新たな科学・技術の開発を通して社会に貢献したい」「歴史に名を残すことを成し遂げたい」は大学院生で多い。
- 専攻別では、理系で「新たな科学・技術の開発を通して社会に貢献したい」が多い。
- 現在の居住地で見ると、「マイホームを建てたい」は、政令指定都市・23区以外の市居住者で多く、「車を所有したい」「お金持ちになりたい」などは町村居住者で多い。また、「都会に住みたい」は政令指定都市・23区、「田舎に住みたい」は町村居住者で多く、現在と似た居住環境が志向されている。
- 経済的なゆとり別では、「海外旅行をしたい」「高級レストランで食事をしたい」「高級車を所有したい」はゆとりのある人で多い。

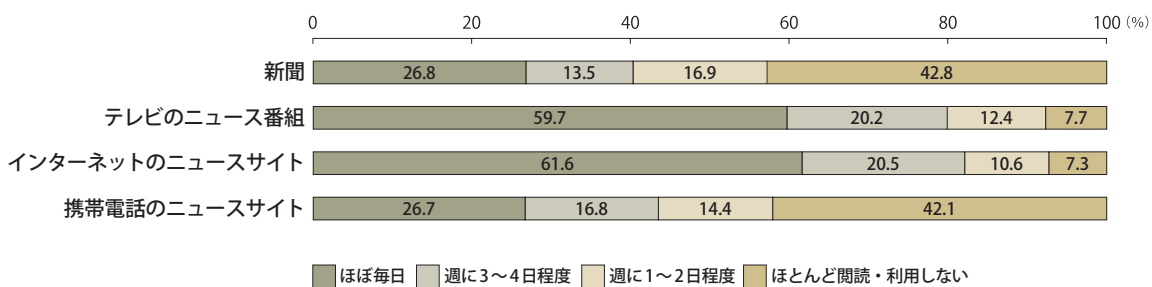


## 政治・社会問題への関心 経済的なゆとりのある層で関心が高い



- ・全体のおよそ8割が政治や社会問題に「非常に興味がある」「まあ興味がある」と回答している。
- ・属性別では、女性より男性、大学生より大学院生、理系より文系で関心度が高い。また、経済的なゆとり別に見ると、ゆとりのある人で最も関心度が高く、平均的な人で最も低くなっている。

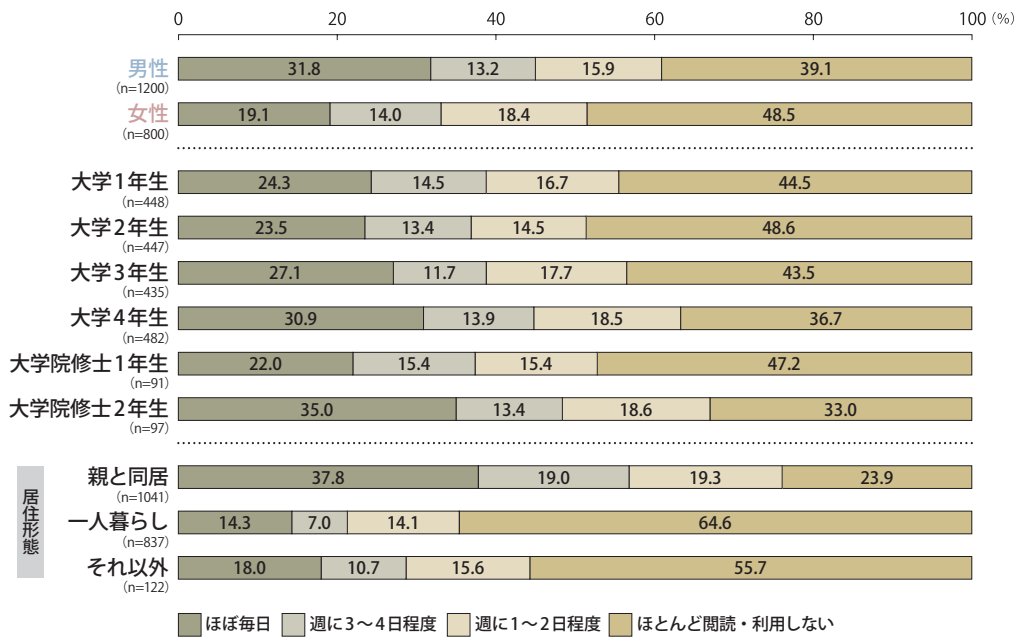
## メディア利用状況 新聞よりもテレビとインターネット



- ・テレビのニュース番組、インターネットのニュースサイトは、約6割が「ほぼ毎日」見ていると回答。
- ・新聞、携帯電話のニュースサイトについては、「ほぼ毎日」は全体の4分の1強で、4割以上が「ほとんど閲読・利用しない」と回答している。

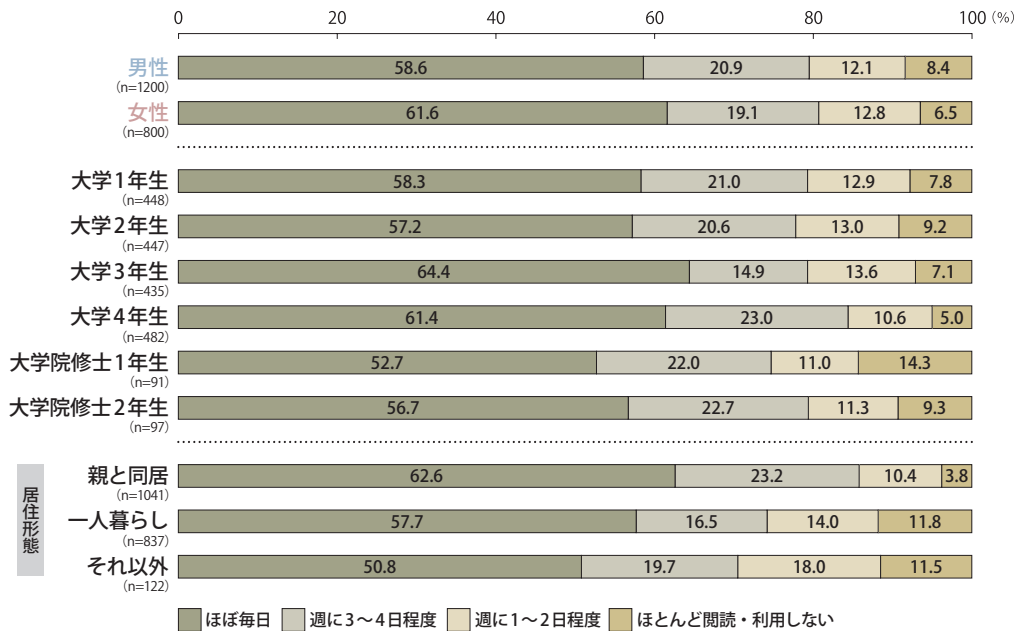
政治・社会問題への関心

## メディア利用状況 (新聞) 親と同居の学生は新聞を読む

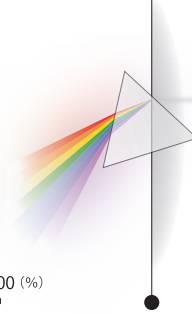


- ・男性は「ほぼ毎日」新聞を読む人が約3割と、女性に比べて多い。
- ・学年で見ると、大学生・大学院生のそれぞれ高学年で、「ほぼ毎日」が多くなっている。
- ・親と同居の場合では、一人暮らしの場合と比べ、倍以上が新聞を読んでいる。

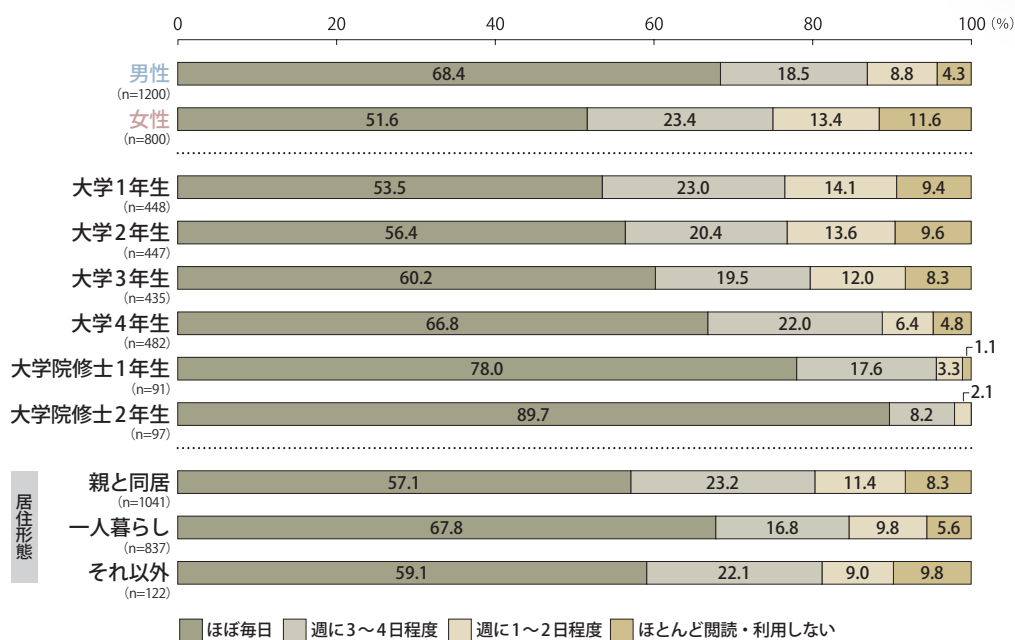
## メディア利用状況 (テレビのニュース番組) 親と同居の学生ほどテレビのニュースを視聴



- ・テレビのニュース番組の視聴頻度は、性別による差は小さく、居住形態別では「親と同居」で、「一人暮らし」「それ以外(寮生活など)」と比べて高くなっている。

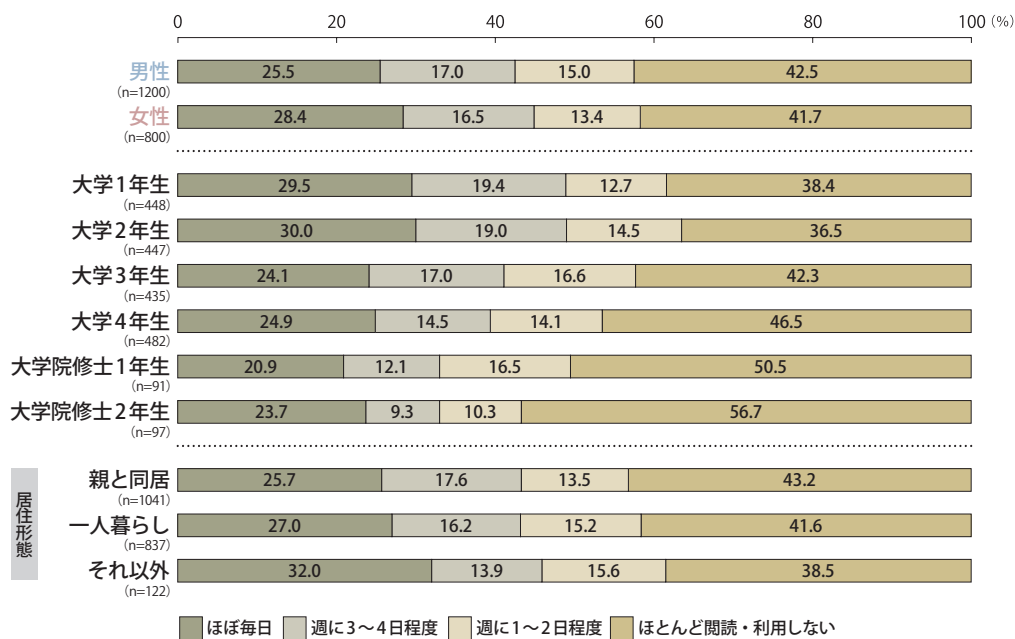


## メディア利用状況（インターネットのニュースサイト） 一人暮らしのほうがインターネットのニュースサイトを利用



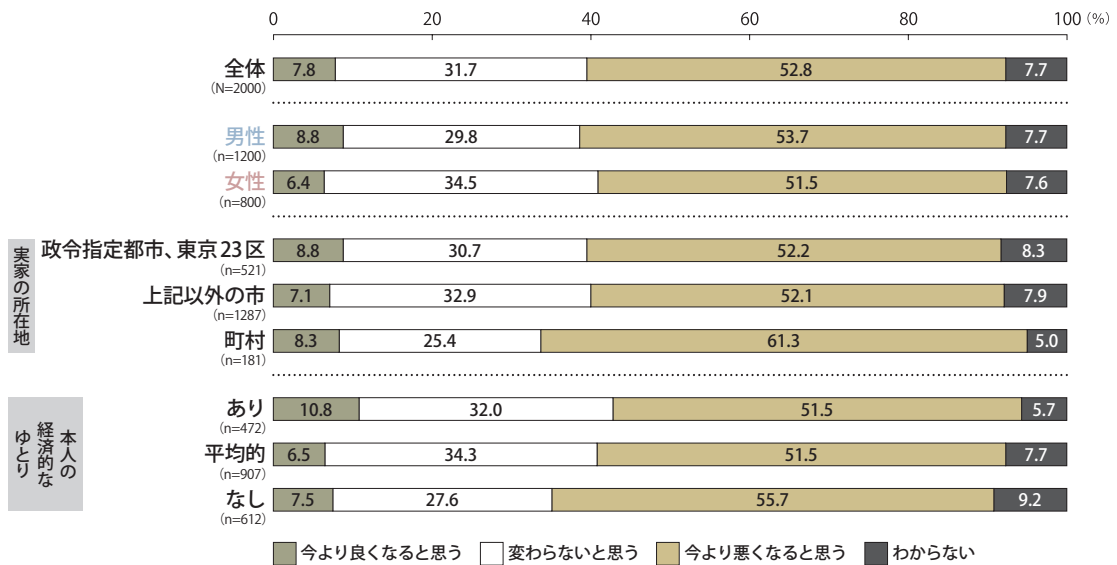
- ・インターネットのニュースサイトは女性よりも男性で「ほぼ毎日」見ている割合が高い。
- ・学年別では、学年が上がるほど閲読頻度が高くなっている。
- ・居住形態別に見ると、一人暮らしで閲読頻度が高い。

## メディア利用状況（携帯電話のニュースサイト） 若い学生ほど携帯電話のニュースサイトを利用



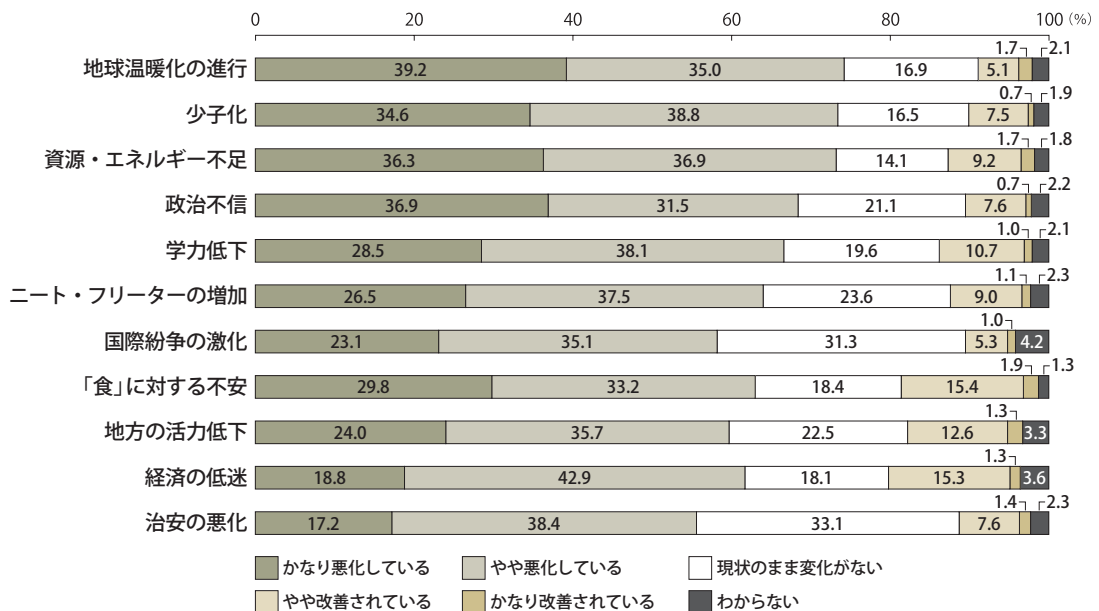
- ・携帯電話のニュースサイトは、学年が上がるほど「ほとんど閲読・利用しない」が多くなっている。
- ・居住形態別では、「それ以外（寮生活など）」で閲読頻度が高い。

## これからの日本 過半数が「今より悪くなる」



- ・日本のこれからのについて、全体の半数以上（52.8%）が「今より悪くなると思う」と回答。「変わらないと思う」は31.7%、「今より良くなると思う」は7.8%。
- ・実家の所在地で見ると、町村で「今より悪くなると思う」とする割合が高い。
- ・経済的なゆとり別では、ゆとりのない人で「今より悪くなると思う」とする割合が高い。

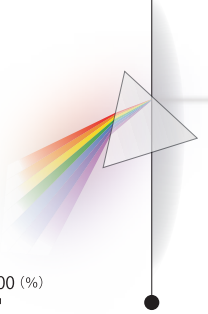
## 日本の社会問題に関する予測（10年後について） 「悪化している」が多数派



- ・全ての項目において、「改善されている」より、「悪化している」という予測が多くなっている。
- ・特に悪化すると見られているのは、「地球温暖化の進行」「少子化」「資源・エネルギー不足」で、7割以上が「かなり悪化している」「やや悪化している」と回答。続いて「政治不信」「学力低下」「ニート・フリーターの増加」「国際紛争の激化」「『食』に対する不安」「地方の活力低下」「経済の低迷」「治安の悪化」という順になっている。
- ・比較的「改善されている」との予測が多かったものとしては、「経済の低迷」「『食』に対する不安」「地方の活力低下」が挙げられる。

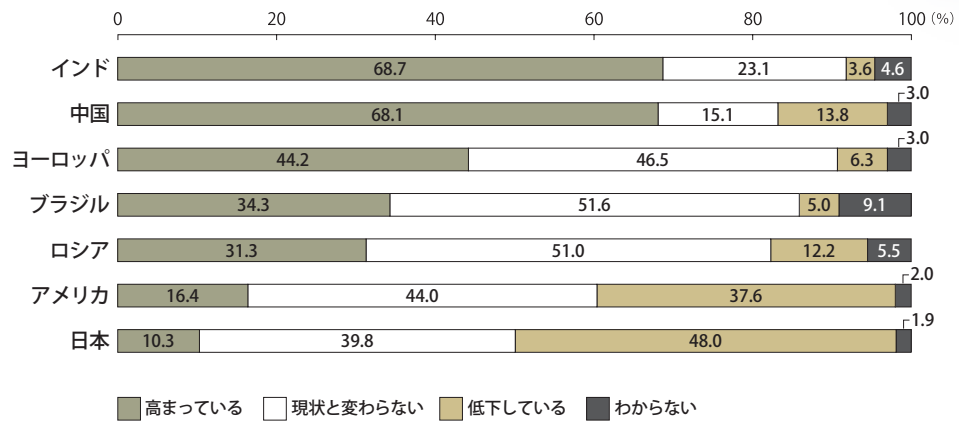
今後の社会について





## 各国・地域の国際的な影響力の予測 (10年後について)

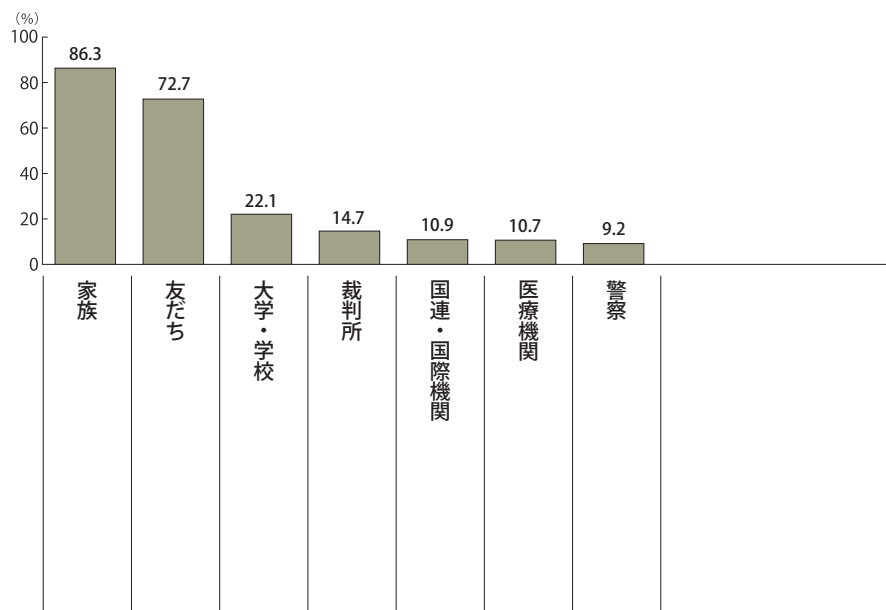
### 日本の影響力は低下している



- ・インド、中国の国際的な影響力については7割近くが「高まっている」と予測。ヨーロッパ、ブラジル・ロシアについては「高まっている」と「変わらない」に予測が分かれた。
- ・一方、日本については半数近くが「低下している」、4割が「現状と変わらない」と予測している。「高まっている」は全体の1割と少ない。

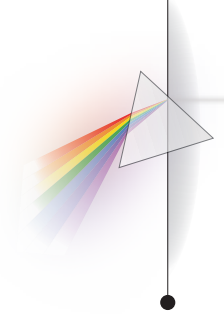
	8.3	7.8	5.7	4.5	4.3	3.0	2.6	2.1	2.0	1.7	1.3	6.9
NPO・NGO	8.3	7.8	5.7	4.5	4.3	3.0	2.6	2.1	2.0	1.7	1.3	6.9
自衛隊	7.6	10.1	6.7	4.1	5.3	4.0	3.3	2.4	2.3	1.8	1.6	7.5
隣近所の住民	9.4	4.3	4.1	5.0	2.6	1.5	1.5	1.6	1.5	1.5	0.9	5.9
福祉・介護施設	7.9	6.9	4.6	4.0	2.9	1.3	1.9	2.1	1.0	1.5	1.0	5.8
民間企業	8.4	7.8	5.4	4.5	4.0	3.5	2.8	2.0	2.2	1.6	1.3	7.5
地方自治体(市町村)	8.8	10.5	10.5	5.5	9.9	4.4	3.3	2.8	3.3	2.2	2.2	6.1
地方自治体(都道府県)												
マスコミ												
政府												
中央官庁												
国会												
左記のうち信頼できるものはない												

信頼できる人・組織 (あてはまるものをすべて選択)  
**家族と友だちが圧倒的**



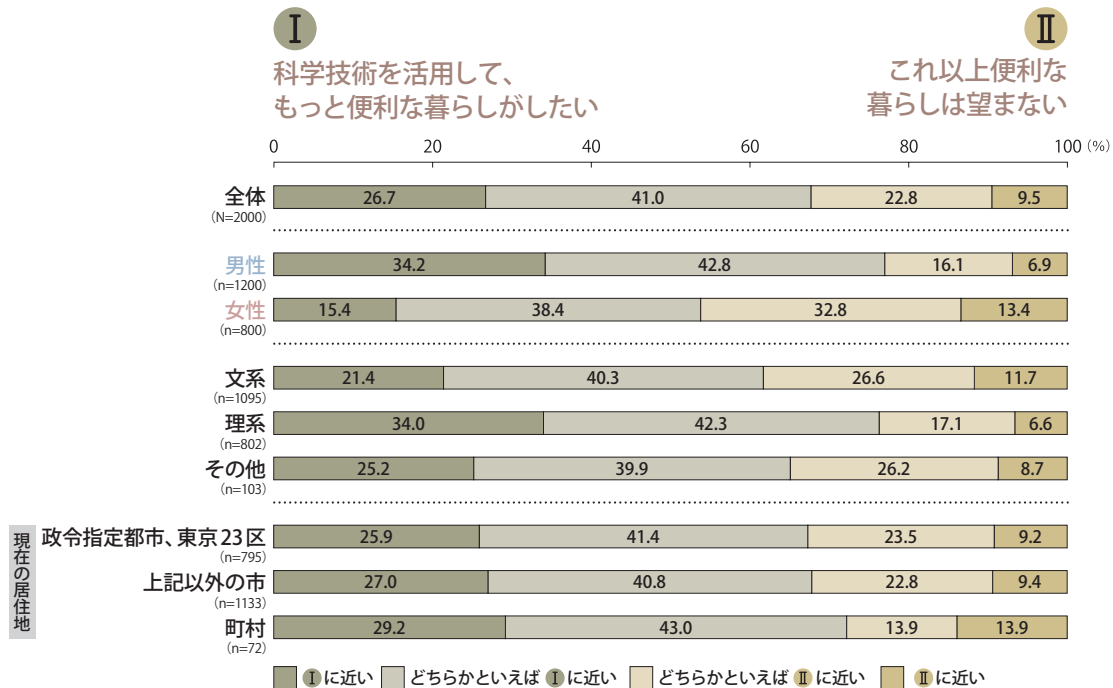
	全体 (N=2000)	家族	友だち	大学・学校	裁判所	国連・国際機関	医療機関	警察
全体 (N=2000)	86.3	86.3	72.7	22.1	14.7	10.9	10.7	9.2
男性 (n=1200)	84.6	84.6	72.9	21.9	15.5	11.1	11.3	9.2
女性 (n=800)	88.9	88.9	72.3	22.4	13.4	10.5	9.6	9.1
所在地	政令指定都市、東京23区 (n=521)	86.0	73.9	22.5	15.7	10.7	9.6	8.4
実家の所在地	上記以外の市 (n=1287)	86.5	72.3	21.1	14.0	11.0	10.3	8.9
	町村 (n=181)	85.1	70.7	27.6	16.6	9.9	16.0	13.3

- ・信頼できる人や組織についてたずねたところ、「家族」(86.3%)、「友だち」(72.7%)が、群を抜いて多い結果となった。これに「大学・学校」「裁判所」「国連・国際機関」「医療機関」が続く。
- ・実家の所在地別に見ると、町村では、「大学・学校」「医療機関」「隣近所の住民」「民間企業」を挙げる割合が比較的高くなっている。



科学技術に対する考え方 (①・②のうち近いほうを選択)

## 「科学技術を活かして、 もっと便利な暮らしをしたい」が約7割

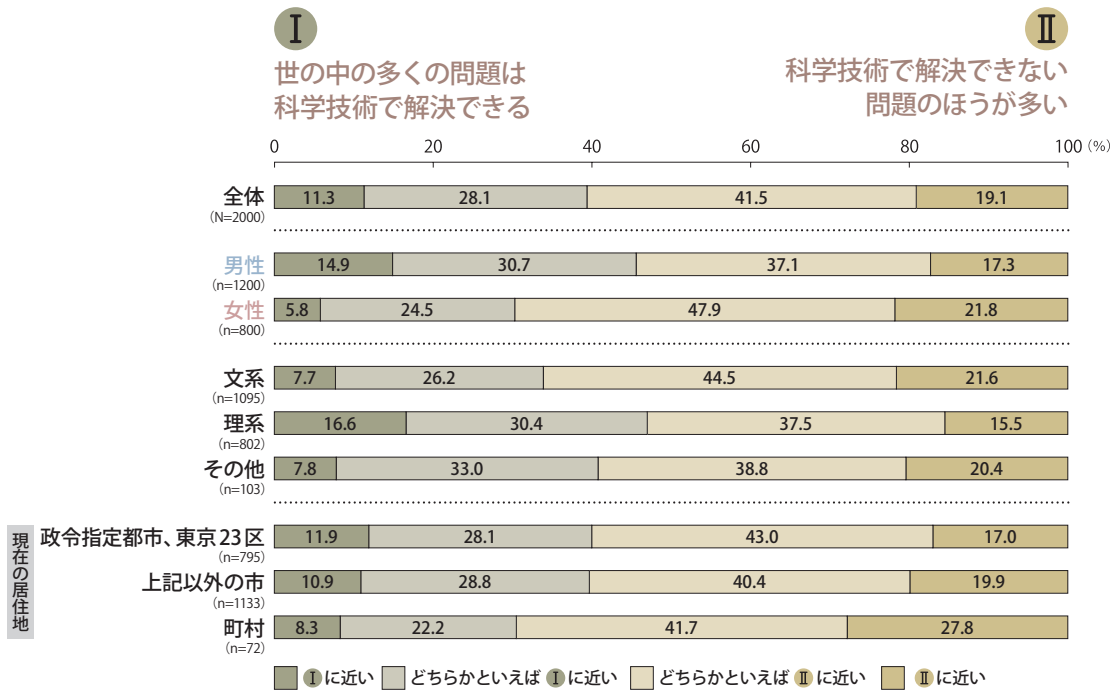


■ ①に近い ■ どちらかといえば①に近い ■ どちらかといえば②に近い ■ ②に近い

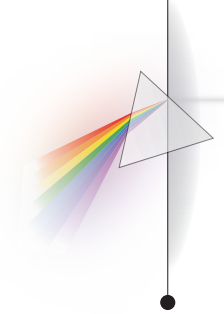
- ・「科学技術を活用して、もっと便利な暮らしをしたい」(計67.7%)が「これ以上便利な暮らしは望まない」(計32.3%)を上回る結果となった。
- ・ただし、男女間で考え方に違いが見られ、女性では「これ以上便利な暮らしは望まない」が46.2%を占めている。
- ・専攻別に見ると、文系よりも理系の学生で「もっと便利な暮らしをしたい」とする割合が高い。
- ・居住地別では、町村居住者で「もっと便利な暮らしをしたい」とする割合が若干高くなっている。

科学技術に対する考え方 (Ⅰ・Ⅱのうち近いほうを選択)

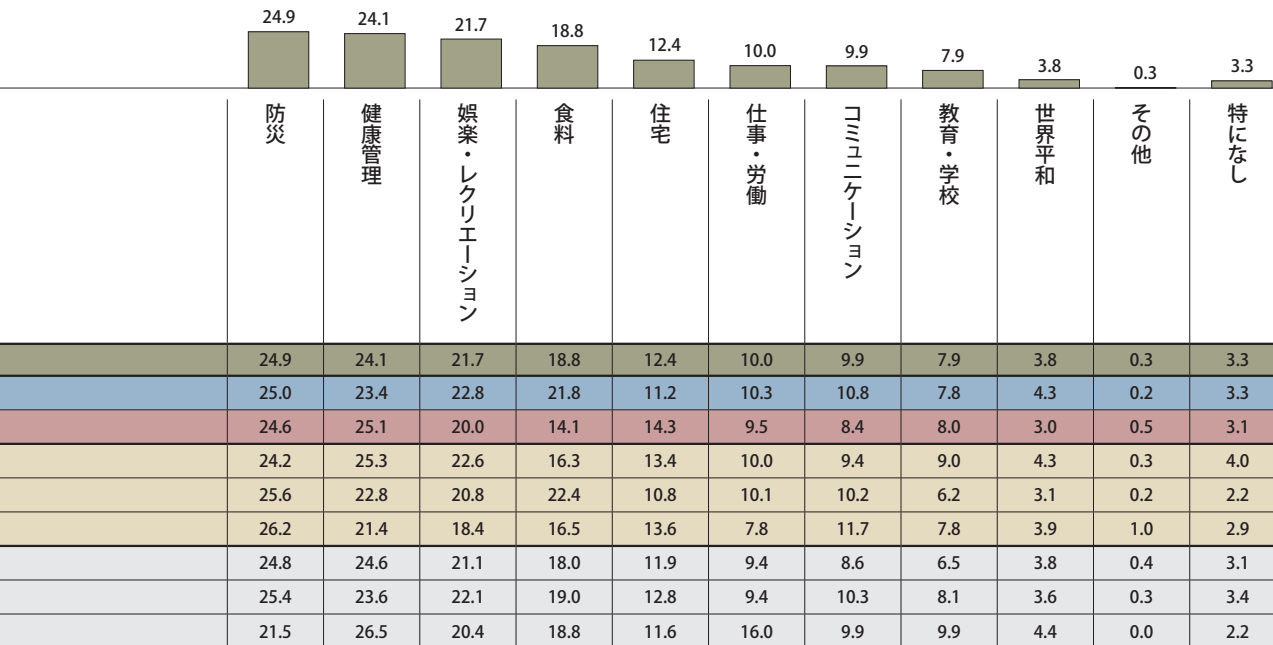
## 「科学技術で解決できない問題のほうが多い」と感じる学生は約6割

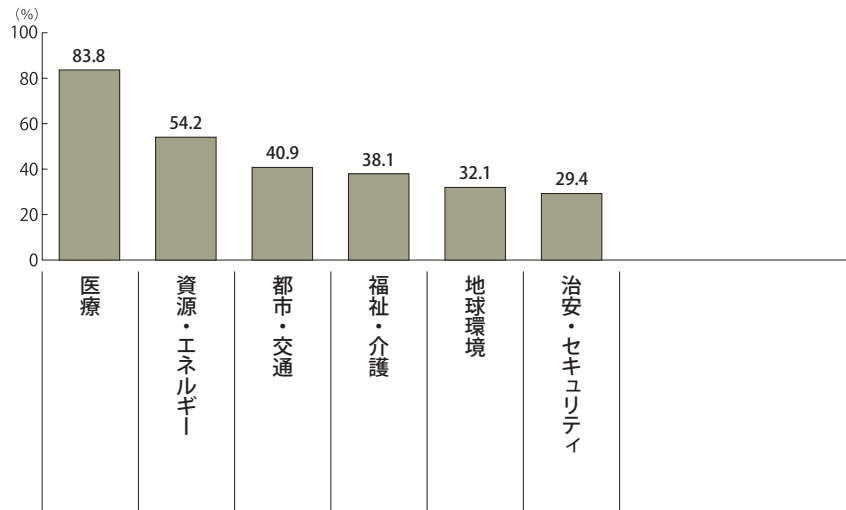


- ・「世の中には科学技術で解決できない問題のほうが多い」(計60.6%)が、「多くの問題は科学技術によって解決できる」(計39.4%)を上回る結果となった。
- ・属性別に見ると、男性より女性、理系より文系、都市居住者より町村居住者で、「科学技術で解決できない問題のほうが多い」と考える人が多い。



## 10年後、科学技術の貢献が期待できる分野 (5つまで選択) 医療分野への期待が8割強





	医療	資源・エネルギー	都市・交通	福祉・介護	地球環境	治安・セキュリティ	
全体 (N=2000)	83.8	54.2	40.9	38.1	32.1	29.4	
男性 (n=1200)	83.3	58.1	42.2	32.9	34.3	27.8	
女性 (n=800)	84.6	48.3	38.9	45.9	28.8	31.8	
文系 (n=1095)	83.9	49.4	39.8	40.3	28.7	31.7	
理系 (n=802)	83.7	60.8	42.3	34.7	36.5	26.1	
その他 (n=103)	83.5	52.4	40.8	41.7	34.0	31.1	
実家の所在地	政令指定都市、東京23区 (n=521)	84.3	51.8	42.8	38.0	33.0	33.2
	上記以外の市 (n=1287)	84.1	54.6	40.2	38.1	32.3	27.3
	町村 (n=181)	80.7	58.0	42.5	38.7	27.6	34.3

- 10年後、科学技術の発展による効果が最も期待できると考えられているのは「医療」で、8割以上が選択している。これに、「資源・エネルギー」(54.2%)、「都市・交通」(40.9%)、「福祉・介護」(38.1%)と続く。
- 性別に見ると、「資源・エネルギー」への期待は男性で、「福祉・介護」への期待は女性で高い。
- 専攻別では、文系より理系で「資源・エネルギー」が多く挙げられている。
- 実家の所在地が「町村」の場合では、都市部と比較して「仕事・労働」分野への期待が高くなっている。